初學日本文典

物集高見著

下

特34
802

類文典 屬日本 冊二 函十 號九六

明治十二年九月十二日發行

初學日本文典卷之下

物集高見 著
根本真苗 校

豐後

辭

接辭ハ事物ヲ接續シ及ビ文脈ヲ上下ニ通ズル媒介ニ用フル詞ナリ乃チ「親友を訪ふ」「學問を為む」「旅に故郷の人と旅の空の月を觀る」ノ如シ而メ接辭ニ實體言ヲ兼ル者アリ虛體言ヲ兼ル者アリ假體言ヲ兼ル者アリ代名言ヲ兼ル者アリ作用言ヲ兼ル者アリ形狀言ヲ兼ル者アリ又接辭ト接辭ト連續スル者アリ實體言ヲ兼ル者ハ「人の」「月を」虛體言ヲ兼ル

者ハ「夢に。」「心は。」「樂みに。」代名言ヲ兼ル者ハ「我が。」「汝は。」作用言ヲ兼ル者ハ「問ふに。」「學ぶは。」形狀言ヲ兼ル者ハ「近きに。」「麗しきは。」接辭ト接辭ト連續スル者ハ「をは。」「もぞ。」ノ如シ此接辭ハ其用法ノ差異ニ隨テ之ヲ左ノ各種ニ區別ス

○接辭ノ種類

第一　嘆辭
第二　希求辭
第三　命令辭
第四　禁止辭
第五　指示辭
第六　現在辭
第七　過去辭
第八　將來辭
第九　否不辭
第十　疑辭
第十一　反辭
第十二　兩辭
第十三　分量辭
第十四　想像辭
第十五　決定辭
第十六　比准辭
第十七　助辭
第十八　句頭接辭
第十九　一種接辭
第二十　崇敬辭

接辭ニモ亦格アリ將然。連用。假體。截斷。連體。已然。ト云フ全ク作用言ノ格ト其義ヲ同スレ共接辭ハ固ヨリ體用ニ語ノ媒介ニ用フルノミニテ獨立スベキ辭類ニ非ザルヲ

以テ體用ヲ兼接セシ上ヨリ觀ルニ非ザレバ其格ノ如何ハ之ヲ明知スルニ由ナシ故ニ先ヅ各種ノ體言及ビ用言ヲ兼ル表ヲ擧ゲ逐次ニ其下ニ連續スル格ト用法トヲ詳悉スベシ

體言ヲ兼ル接辞

此表中ニ掲出スル接辞ハ實體言ノ「ひと」虚體言ノ「こころ」假體言ノ「あそび（遊）」「たのしさ（樂）」代名言ノ「われ（我）」ト云フ辞ヲ以テ例ヲ古書ニ徴シ一々ニ推シ試ミシ者ニ係ル而メ體言ハ實體言ノ外ハ大率其辞ニ因テ連續スル者ト否ラザル者トアリ譬ヘバ數辞及ビ聲音（コエオト）等ハ同ジ虚體言ナレドモ僅ニ一個ノ接辞ノミニ係リテ「數」辞ハ「ひと（人）」ト分ツ「量辞ノつニ係リ聲ト音ト」ト兩辞ノよそよと。ニ係ル如シ他辞ニ連續セズ又「われ（我）」「なれ（汝）」ト「わ（我）」「な（汝）」トハ同ジ代名言ナレドモ「われ（我）」「なれ（汝）」ヲ兼テ「わ（我）」「な（汝）」ヲ兼ザル者アリ「ゆ」「ぬ」「ぶ」「ぐ」「ず」「ら」「る」「ん」ハ兼ル者ト兼ザル者トアリ「ゆ」ハ指示辞ノ「あれ」ト「の。」ハ「われ（我）の。」「なれ（汝）の。」ト「ぬ」ハ「わ（我）」「な（汝）」ヲ兼ル者ト兼ザル者トアリ「ぶ」ハ「わ（我）」ヲ兼ル者ト兼ザル者トアリ「ぐ」ハ「な（汝）」ヲ兼ル者ト兼ザル者トアリ「ず」ハ「わ（我）」ヲ兼ル者ト兼ザル者トアリ「ら」ハ「な（汝）」ヲ兼ル者ト兼ザル者トアリ「る」ハ「わ（我）」「な（汝）」ヲ兼ル者ト兼ザル者トアリ「ん」ハ「わ（我）」「な（汝）」ヲ兼ル者ト兼ザル者トアリ此類の如キハ一辞一辞ニ就テ其例ヲ擧ル能ハズ然レドモ體言ヲ兼ル接辞ハ此表ニ載スル者ノ外ニ在ルコト、ナケレバ其兼ルト兼ザルトハ其辞ニ就テ推シ試ミバ自ラ明瞭ナル可

シ

實體ヲ兼ル接辭

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	作用ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	禁止辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
な	な	な
を用連	な用連	な用連
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なも	なも	なも
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	作用ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	禁止辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
な用連	な用連	な用連
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	形狀ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	指示辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	形狀ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	指示辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	作用ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	禁止辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
な用連	な用連	な用連
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	作用ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	禁止辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
な用連	な用連	な用連
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	形狀ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	指示辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	形狀ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	指示辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	作用ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	禁止辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
な用連	な用連	な用連
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	作用ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	禁止辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
な用連	な用連	な用連
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	形狀ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	指示辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	形狀ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	指示辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

實辭	虛體ヲ兼ル接辭	形狀ノ假體ヲ兼ル接辭
實辭	指示辭	指示辭
や	や	や
も	も	も
よ	よ	よ
か	か	か
かな	かな	かな
かも	かも	かも
を	を	を
に	に	に
指示辭	指示辭	指示辭
へ	が	が
の	は	は
ぞ用連	ぞ斷截	ぞ斷截
こそ	こそ	こそ
を	を	を
なむ	なむ	なむ
現在辭	現在辭	現在辭
なら	なら	なら
なり	なり	なり
なる	なる	なる
なれ	なれ	なれ
疑辭	疑辭	疑辭
か用連	か用連	か用連
かも用連	かも斷截	かも斷截

作用言ヲ兼ル接辞

此表中ニ掲出スル接辞ハ將然。連用。ハ四段言。截斷。ハ上二段言。連體。ハ下二段言。已然。ハ四段言ト變格ノ活辞トヲ以テ例ヲ古書ニ徴シ一々ニ推シ試ミシ者ニ係ル而ノ同ジ將然中ニ於テモ各段ノ活辞ニ因テ兼ル者ト兼ザル者トアリ例ヘバ命令辞ノよ。こそハ作用ノ將然ヲ兼ル接辞ナリト雖モ四段ノ將然ノミハ兼ザルガ如シ四段ノ活辞ハ其第四音直ニ命令ヲ示スヲ以テナリ然レ𪜈此類ノ如キハ一々ニ表ニ掲ルト能ハザルヲ以テ其分明ナラザル者ハ更ニ下條ニ擧ル所ノ各種ノ接辞ニ就テ其格ノ如何ヲ觀ル可シ

將然ヲ兼ル接辞	連用ヲ兼ル接辞	截斷ヲ兼ル接辞	連體ヲ兼ル接辞	已然ヲ兼ル接辞
希求辞 ばや	希求辞 ねこそ	爲辞 や	爲辞 や	指示辞 ぞ（連用）
命令辞 なむ	禁止辞 なかね（連用）	禁止辞 なな	指示辞 か	疑辞 か（連用）
將然辞 む	指示辞 は	指示辞 に、ぞ（連用）	疑辞 か（截斷）や（連用）	反辞 か（連用）や（連用）
も	こそ	が	を	兩辞 ど
まく	なむ	ぞ（截斷）は	こそ	接續辞 ば
まし	なる	なり	なむ	
まほし	なれ	なれ	なもいかも（連用）や（連用）	
否定辞 ず	過去辞 き	兩辞 と	現在辞 なり	
ざり	て			
ざる	現在辞 なり	分量辞 ばかり	疑辞 か（截斷）や（連用）	
ざれ	接續辞 ば	接續辞 らむ		
ざぬ	兩辞 ど	疑辞 か（截斷）や（連用）		
ね	接續辞 ば			
で				
に				
接續辞 ば				

| | | |

疑辞　か連用　や連用　も連用
反辞　か連用　や連用　も連用
両辞　も　そう　さへ
分量辞　のみ

反辞　や断截　や断截
両辞　と　とも
種類辞　か志　なり　なり
疑辞　や連用　か断截　か断截　かも断截　かも断截　かぞ
現在辞　なり　なり　なれ
反辞　か断截　か断截　かも断截　かぞ
両辞　や連用　や連用　や連用　や連用
両辞　だに　だに　なべ　さへ　そう
分量辞　のみ　ほど　まで
比准辞　ごと志　ごと　ごとく　ごとき
助辞　い志　ろ　志も　ゆゑ　より
種類辞　こそ　なむ

體言用言ヲ兼ル接辞ハ表ニ載ル如シト雖モ尚其兼ル辞ニ因テ少差アル者及ビ接辞ノ接辞ト連續スベキ者ノ如キハ其接辞ノ條下ニ論ズ

嘆辞

嘆辞ハ心意ノ感動即チ慷慨惻怛ヲ呼ブ辞トス「あ」「あな」「あな悶(いき)ろ悲(かな)」「嬉(うれ)き哉(かも)」「悲(かな)き哉(かな)」ノ「あ」「あな」「かもかなノ如シ而ノ此辞ニ上ヲ兼テ下ニ接グ可キ格ヲ有ツ者ト否ラザル者トノ二類アリ其上下ニ関係ナキ者ハ左ノ如シ

あ　あな　あや　あは

あお　あを

あはれ　え

上下ニ關係ノ格ヲ有ッ嘆辭ハ其數九個ニメ左ニ示ス

如シ

各種ノ體言ト作用形狀ノ連體截斷及ビ四段ノ命令言トヲ兼ク

（や）截斷　連體

蝶や。花や。

鳴けや。鶯。

各種ノ體言及ビ作用ノ截斷連體ト四段ノ命令言トヲ兼ク

（よ）截斷

物を思ふよ。

心細さよ。

此よ。ト命令辭ノよ。ト常ニ甚ダ紛ヒ易シ「を教へよ。」ト「な習ひそへよ。」ト「を教へよ。」ノよ。ハ命令辭ニシテ「な習ひそへよ。」ノよ。ハ嘆辭ノナリ斯ノ

如ク同辭同格ニ辭並ニ截斷ノ格ニテ二種ニ分ル、者ハ其兼ル辭ノ格ノ異ナルニ因ル乃チ命令辭ハ將然ヲ兼ケ嘆辭ハ命令ヲ示ス辭尾ヲ兼ル者トス詞ニ本邊史ノ詔旨ノ乎開食倍與止宣」トアルモ命令ヲ示ス辭尾ヲ兼タル者ニテ即チ嘆辭ノよ。ナリ

實體虛體代名ト作用形狀ノ截斷トヲ兼ク

（も）截斷

我も悲も。

限り知らぬも。

實體虛體代名ト四段ノ命令言トヲ兼ク

（を）截斷

妹待つ我を。

船渡せを。と

作用形狀ノ截斷ト四段ノ命令言トヲ兼ク

（な）截斷

飛出悲な。

我は知らぬな。

作用形状ノ截断ヲ兼ク
（ゐ）截断

此ゐハ上古ノ言辞ニテ中古以降ニハ殆ド用ヒザル如シ而メ也行ノ江ニ通ゼシ者アリ萬葉集ニ「父母江」トアルヲ觀レバ實體言ヲモ又萬葉集ニ「父母江祝ひて待たね」ト兼ルニ似タリ萬葉集ノ江ハ也行ノ江ニテ祝ひて待たねノねノ「父母江」ト通音ナレバ上ニ擧タル阿行ノえノト異ナリ

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク
（か）截断

我は待むゐ。
我はさぶまゐ。

長閑にもあるか。
寂寥くもあるか。
豊なるかな

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク
かな截断

静なるかな

希求辞

希求辞ハ「讀まばや」「書はばや」ノばやノ如ク作用ノ活辞ニ附テ心意ノ冀望ヲ見スニ用フル辞トス。

過去辞ノきト兩辞ノきトヲ兼ク
（が）截断

聞きにまが。
見てまが。

過去辞ノきト兩辞ノきトヲ兼ク
がな截断

逢ふ由もがな
到りにまがな

過去辞ノきト兩辞ノきトヲ兼ク
がも截断

常にもがもな
人にもがもや

作用ノ將然ヲ兼ク
ばや 截斷

人に見せばや
聲を聞かばや

命令辭

命令辭ハ「勉めよ。」「教へよ。」ノよ。ノ如ク作用ノ活辭ニ附テ他ニ使役ヲ與フル作業ヲ見スニ用フル辭トス

作用ノ將然連用ト禁示辭ノゼトヲ兼ク
ね 截斷

絶えなば絶えね。
雨な零りそね。

作用ノ將然ヲ兼ク但シ四段ノ將然ハ兼ネ知
よ 截斷

思出に為よ。
立出て見よ。

作用ノ將然ヲ兼ク
「なのし」截斷

若菜摘まなむ

作用ノ將然ヲ兼ク但シ四段ノ將然ハ連用ヲ兼ク
こそ 截斷

霜は置かなむ
夢に見えこそ
人に告げこそ

こそハこをこせトモ活用シテかもし古事記ニ「こせとうちやめこせね」萬葉集ニ「散りこそぬなゆめ」在りこせぬ辭義モ亦「勿レト」キ顧フ」意ニ變ズこせト云ヘバ禁止辭ノな・截斷ニ續希求辭ノね・ニ連續ス

禁止辭

禁止辭ハ「往(ユ)くな。」「打(ウ)つな。」ノな。ノ如ク他ノ作業ヲ禁ズルニ用フル辭トス

作用ノ截斷ノ條ノ

(な)截斷

此截斷ノな。ヲ或書ニ雅言ナラズト云ヘリ然レドモ古今集「我を恨むな」「夫木集「牛の子に踏まるな」草庵集「謀らるな」等ニ載タレバ其鄙語ナラザル証スベシ又此な。ハ稀ニ連體ヲ兼タル者アレドモ散木集ニ「いはなごほろびて溝に落るな」普通ノ例トハ觀ル可ラズ

各種ノ體言ト作用形ノ連體トヲ兼ノ

(な)連用

此連用ノな。ハ禁止辭ノそト對スルハ普通ノ例ナレ

花を折るな。
戲を為な。

人な咎めそ。
吹な散そ。

ドモ或ハ其そ。ヲ省クコトアリ萬葉集ニ「雲な。霏霺き」「我無去とな。侘び」ノ如シ

禁止辭な。ハ連用ヲ兼ノ

(そ)假體截斷

痛くな侘びそ。
聲な聞かせそ。

此そ。ハ命令辭ノね。ニ係テそ。ヨ。ト嘆辭ノや。ニ係テそ。や。ト用ユ萬葉集ニ「柴な外りそよ。源氏若菜ノ巻ニ「なねそ。ね。」雪な踏みそ。ね。」新拾遺集ニ「神の駒よ。ニ係テたまひそ。よ。」「雨な零ト呼ブコトアリ

指示辭

指令辭ハ「京(キナカ)に。」「田舎へ。」「是れぞ。」「其れぞ。」ノにへ。

ぞ。ノ如ク其事物ヲ指示スル二用フル辞トス

各種ノ體言ト作用形ト連體トヲ兼ク
(に) 連用 假體

櫚于(ハンマ)に倚(ヨ)る
物(モノ)を思(オモ)ふに。

實體虛體代名ヲ兼ク
(へ) 連用 假體

人(ヒト)の許(モト)へ。
東(アヅマ)の方(カタ)へ。

各種ノ體言ヲ兼ク
(の) 連用 假體 連體

秋草(アキクサ)の。花
月(ツキ)の。照(テ)る

此の。ニ「の如く」ト云フ意ノト「と。ニ通フ」ノト「が。ニ通フ」ノトアリ「の如く」ノ意ノハ古今集ニ「逝く水(ユ ジ)の早(ハヤ)くぞ」ノ逝水ノ如ク「早ク」ぞノ意「松の葉の。(イツ)何時とも分かぬ」松ノ葉ノ如ク何時トモ分カ

ノ「の者(モノ)」ノ意ノハ千載集ニ「世の常の。とや」世ノ常ノ者トヤノ意佛足石歌ニ「常の。も在れど」常ノ者モ在レドノ意ニ「と。ニ通フ」ノハ貫之集ニ「春の。共に去別るれば」春ト共ニンルレバノ意古今集ニ「秋霧の。共に立出て」秋霧ト共ニ「が。ニ通フ」ノ意「水の上に浮べる舟の。君ならば」水ノ上ニ浮ベル舟ガ君ナラバノ意金葉集ニ「待つ人の。大空渡る月ならば」待ツ人ガ大空渡ル月ナラバノ意

ノ如シ總テ用言ニ連續スルノハ皆ガ。ニ通フ者トス古今集ニ「志賀の山越えて女の。多く逢りける」ト「女ガ我ニ逢ル」ノ意ナリ又此の。ハ

嘆辭ノや・ニ係テのや・ト云ヘルアリ萬葉集ニ「石見のや」「堀川百首ニ「錦のや」ノ類

（が）實體虛體代名ト作用形狀ノ連體トヲ兼ク　假體連體

我が。立濡れ衣
見るが。樂さ

（ぞ）各種ノ體言及ビ作用形狀連體ト作用ノ已然トヲ兼ク　連用

雪ぞ。零るなる
風ぞ。吹くなる

（ぞ）各種ノ體言ト作用形狀ノ連體トヲ兼ク　截斷

益荒武夫ぞ。
夜は眞夜中ぞ。

截斷ノぞ。ハ假體ニ用フルアリ古今集ニ「何ぞ。は善けく」「風雅集ニ「人にはさぞ。のなからまかば

（を）各種ノ體言ト作用形狀ノ連體トヲ兼ク　連用　假體

ノ如シ

臚月を觀る
山路を行く

（は）各種ノ體言ト作用形狀ノ連用連體トヲ兼ク　連用　假體

旅は。憂き
露は。深き

此は。ハ嘆辭ノや・ニ係テは。係テはよ。神武紀ニ「妹はよ」「妹もよ」古今集ニ「雪ト呼ブアリ然ニ嘆辭ノや・ニ係ルはの。や・ニ紛ヒ易キ者アリ乃チ疑辭ノや・ニ係レル其レナリ萬葉集ニ「年はや經なむ」「我はや戀む」然レド疑辭ノや・ハ連用ニテ古事記ニ「吾嬬はよ・ニ」「其太刀はやし」古事記ニ「問ひ君はも」

嘆辞ノや・ハ截断ナレバ其格ヲ推サバ自ラ明瞭ナラン

各種ノ體言及ビ作用形状ノ連體ト作用ノ已然トヲ兼ク
こそ 連用 假體

此こそハ假體ノ格ヲ有ツヲ以テ疑辞ノや・ニ係テこそや・ト云フ一アリ拾遺集ニ「我こそや見其やハ連用ノ格ヲ有テルや・ナリ

各種ノ體言ト作用形状ノ連用連體トヲ兼ク
なむ 連用 假體

我こそ教ふれ
汝こそ習へ

各種ノ體言ト作用形状ノ連用連體トヲ兼ク
なも 連用 假體

花なむ開きける
是れなむ花なる
神になも在りける

此なむなもハ共ニ上ノぞ。用連ニ通ヒテ其用法全クぞ。

神をなも祭るなる

ニ異ナル一無シ

現在辞

現在辞ハ、「往きて。觀る」「來て。聽く」「思ふなる」「馴るるなり」ノて。なるなりノ如ク方今ノ時ヲ見シ又「然なり」「斯くなる」ノ如ク否不辞ニ對シテ事物ノ然カ在ルヲ示スニ用フル辞トス

各種ノ體言及ビ作用形状ノ連體ト作用ノ截断トヲ兼ク
なら 將然

此人ならむ
彼書ならむ

此ならハ現今其事物ノ然カ在ルヲ示ス辞ナルヲ以テ亦作用言ヲ兼ルトキハ其活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

各種ノ體言及ビ作用形狀ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ヌ
なり　連用　假體　截斷

蟲の聲をなり
風の音をなり

各種ノ體言及ビ作用形狀ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ヌ
なる　截斷　連體

人ぞ告ぐなる
我ぞ聞くなる

各種ノ體言及ビ作用形狀ノ連體ト作用ノ截斷トヲ兼ヌ
なれ　已然

都なれば賑ぎ
鄙なれど閑雅たり

此ならなるなれハ「にあ」ノ約レルなり。

ノ四段ニ活用セル辞ニテ固ヨリ主トシテ時ヲ見ス
ベキ辞類ニハ非ザレドなりなるノ如キハ自ラ方今
ノ時ヲ示シならなれノ如キハ自ラ未來ト過去トヲ
示ス者ハ蓋其四段ニ働クヲ以テ作用ノ活辞ト同ジ
時ヲ見ス者ナリ（或説ニ此辞ハ「音をなり」「聲をなり」ノ如クヲ作用ノ截斷ヲモ兼ルヲ見レバコレニあルノ約ミニハ非ズシテ尚其所由アラント實ニ此説ノ如クニハ截斷ヲ兼ザル辞ナレバ別ニ所由アルベシト雖モ今ハ姑ク舊記ニ基テコレニあノ約トセリ）

作用形狀ノ連用ヲ兼ヌ
て　連用　假體
てめ　てな　てむ　てま　てぬ

明けて。出づ
暮れて。歸る

て。ハ連用ノ格ヲ有ツヲ以テ指示辞ノはニ係テては

萬葉集ニ「殺冬ト云フヲ」今集ノ「無き名取リて。は」ニモ已ニ混ジテ古今ノ「ては。ヲてばトセリ」ハ苦まかりけり」ノ抑て。ハ將然ノ格ヲ有ツニ非ザレバ。ニハ係ラザルヲ種ば。ハ接ハ一辞ニテ將然てばト云フ連續ノ辞アルハ此て。ニ非ズシテ「てあら」ノ約レたるニテ轉ゼシ者ニテ其例ハ形狀ノ一ニ變形ニ同ジ者ナリ故ニ其てばノ下句ニハ必ズ將來辞アリテ應ズル例ナリ古今集ニ「梅が香を袖に移して留めてば春は過ぐとも記念ならまし」紫式部日記ニ「ただならぬ氣色あらばいかに悔まからまし」ばかり叩く水鶏ゆゑあけてばトノ差別ハ其將來辞ノ應ズルヲ以テてば。トテハ。ト否ラザルトニ因テモ亦明瞭ナリ古今集ノ「無き名取りて。は」ノてばヲ「無き名取リて。は」ト否ラザルトニ因テ種々ノ將然ヲ兼ル辞ニ係ルノ如シ

てば ニ非ザル故ニ下句ニ「苦まかりけり」トアリテ將來辞ノ應ゼザルナリ若シ此古今集ノ歌ノてばサラマシカバ下句ニハ必ズ「苦まからまし」トコソ言ハマシカ

約レルて。ハ特リば。ニ係ルノミナラズ種々ノ將然ヲ兼ル辞ニ係ルト左ノ如シ

てむ 貫之や立ち「見てのみ暮らまてむ」

てめ 古今集ニ「今日こそ櫻折らば「折りてめ」

てな 萬葉集ニ「潮干の際に玉藻外りてな」

てまま 新古今集ニ「忘るなとだに言ひてまま」

又稀ニハ否不辞ノぬ。ニ係ルトアリ

てぬ 後撰集ニ「斯くながら散らで世をやはつくまてぬ花の常磐もありと

此類ノて。ヲ若シ「てあら（見る）」ノ約ナラズトセバ一々古書ニ徴シテ其辭ヲ説キ試ミヨ自ラ理會スル所アルナル可シ

と（作用ノ連用ヲ承ク）連用

此と。ハて。ノ轉音ニテ其兼ル作用ノ活辭ニて。ト同ク現在ノ時ヲ見ス者ニース

過去辭

過去辭ハ「讀（ヨ）みき。」「習（ナ）ひけり」「讀（ヨ）みにき」「習（ナ）ひにい

戀（コヒ）を繁（シゲ）みと。
其（ソ）所（コ）も飽（アク）にと。

リ」ノきけりにきにけりノ如ク作用ノ活辭ニ附テ其業作ニ過去ノ時ヲ見スニ用フル辭トス

け（作用ノ連用ヲ承ク）將然

此けハ來（キ）へ經ノ約ニテ「君が往きけ。長（ナガ）くなりぬ」ノけ。ナリ即チ年月ノ經過ヲ云フ辭ナリ

旅（タビ）のけ。長（ナガ）さ

此けハ古事記ニ「あら萬葉集ニ「君が往きけ。長くなりぬ」ノけ。ナリ即チ年月ノ經過ヲ云フ辭ナリ

作用ノ連用ヲ承ク
けら（將然）

所（アラエ）折けらぢや
過（スギ）にけらぢや

此けらハ次ノけりけるけれト同ク來（キ）へ經ノ約レルけ。

ノ良行ノ四段ニ係リテ働ケル辞ナレバ已ニ其事物ノ來（キ）ヘ經アラン事ヲ云フ辞トス故ニ「過（スギ）にけらぞや」ノ如キモ想像過去ヲ見ス者ナリけらハ「けらをや」ト否不辞ノぞニ係ケ更ニ反辞ノやニテぞヲ兼タルモ其例ヲ見ズ故ニ此辞ヲ説バ「過にけらぞやは過にけむ」トナルナリ

作用ノ連用ヲ兼ク　けり　截斷

此けりハ來（キ）へ經ノ約レルけノ良行ノ四段ニ係リテ働ケル辞ニテ作用言ヲ兼レバ其活辞ニ過去ノ時ヲ見ス者トス

春（ハル）は立（タ）ちけり
花（ハナ）は開（サ）きけり

作用ノ連用ヲ兼ク　ける　連體

老（オイ）ぞ竟（オ）てける
若（ワカ）かりける人（ヒト）

作用ノ連用ヲ兼ク　けれ　已然

月（ツキ）こそ出（イ）でけれ
夜（ヨ）こそ明（ア）けけれ

此けるけれモけりト同ジ活用ノ辞ニテ作用言ヲ兼レバ其活辞ニ過去ノ時ヲ見ス者トス

或説ニ此けらけりけるけれハ來有（キアリ）らるれノ約レル者ナリト云ヘリ若シ然ラバ「來有（キアリ）」ト續タル辞モアルベキヲ上古ハ更ナリ中古ノ書ニ於テモ所見ナキノミナラズ果ノ此説ノ如クナラバリニ係

ケズシテ直ニけ。ヨリ他辞ニ係ケテ「け。長き」ト云フモ尚其け。ハ來有ノ約レル者ナリト為スカ「け。長き」ノけヲ來有ノ約リト為サバ「きあ長き」トモ言ザル可ラズ然ル時ハ亦其辞義ハ如何ト為カ決シテ為スヿ能ザルベキヲ以テ其説ノ非ナル

作用ノ連用ヲ兼ク 截断連體 けむ 知ル可シ

作用ノ連用ヲ兼ク 已然 けめ 讀み初めけむ 習ひ始めけむ

作用ノ連用ヲ兼ク 假體截断 けまく 花こそ開きけめ 月こそ出でけめ 語りけまく

作用ノ連用ヲ兼ク 假體截断 けまく 此けむけめけまく 將來辞ノむ。め。まく。ニ其將來辞ノ接續スル為ニ此四辞ノ兼ル所ノ作用言ハ皆其活辞ニ想像過去時ヲ見ス者トス而メ此けむけめけまく ニ紛ヒ易キ者アリ即チ「安をけむ」「惜まけめ」「久まけまく」ノけむけめけまく其レナリ「安をけむ」「惜まけめ」「久まけまく」ノハ形狀

思ひけまく 通ひけまき 思ひけまき

第二變形ノけ。ノ將來辭ノむ。めまく＝係リタル者＝テ全ク此けむ　けめ等トハ其辭類ヲ異＝スル者ナリ

作用ノ連用ヲ兼ク
（き）截斷　思はざりき。習はざりき。

作用ノ連用ヲ兼ク
（ま）連體　人に養れま。鳥誰にか養れま。

作用ノ連用ヲ兼ク
（まか）截斷已然　日こそ暮れまか　夜こそ明けまか

此き。まゝ。まかハ共＝作用言ヲ兼レバ其活辭＝過去ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ連用ヲ兼ク
（に）連用　出でに。ま人　歸りに。けり

此に。ハ必ズ他ノ過去辭ト連合スルヲ以テ作用言ヲ兼レバ其活辭＝大過去ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ連用ヲ兼ク
（にき）截斷　思ひにき　慕ひにき

作用ノ連用ヲ兼ク
（にま）連體　過ぎにま昔　我が過ぎにまに

此にきにまハ過去辭ノ相重リテ成レルナルニ因リ其兼ル所ノ活辭＝於テハ大過去ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ連用ヲ兼ク
(ぬ) 截斷

作用ノ連用ヲ兼ク
〔ぬる〕 連體

作用ノ連用ヲ兼ク
〔ぬれ〕 已然

作用ノ連用ヲ兼ク
〔てき〕 截斷

此ぬ。ぬる。ぬれハ共ニ其兼ル作用ノ活辭ニ過去ノ時ヲ見ス者トス

齡(よはひ)は老(おい)ぬ。
學(まなび)は成(な)りぬ
我(わ)ぞ老(おい)ぬる
學(まな)びぬる業(わざ)
潮(しほ)こそ滿(み)ちぬれ
船(ふね)こそ出(い)でぬれ
思(おも)ひ初(そ)めてき
賴(たの)み初(そ)めてき

作用ノ連用ヲ兼ク
〔てき〕 連體

作用ノ連用ヲ兼ク
〔たら〕 將然

此てきてきハ共ニ其兼ル作用ノ活辭ニ大過去ノ時ヲ見ス者トス

我(わ)が思(おも)ひてき
賴(たの)みてき人

待(ま)ちたらむ
來(き)たらまし

此たらハ次ノたりたる等ト同ク「てあ」ノ約レルた。ノ良行ノ四段ニ働ケル辭ニテ其事物ノ然カ在テ有ランコトヲ云フ辭トス故ニ「待ちたらむ」「來たらまし」ノ如キモ多ク想像過去ヲ示ス者ナリ

作用ノ連用ヲ兼ク
たり 假連用 假斷

作用ノ連用ヲ兼ク
たる 斷連體

作用ノ連用ヲ兼ク
たれ 已然 命令

此たりたるたれハ共ニ「てあ」ノ約レルたノ良行ノ四段ニ働ケル辭ニテ其兼ル作用ノ活辭ニ過去ノ時ヲ見ス者トス而メたれハ四段ノ第四音ニ係ルヲ以テ又命令ヲ示ス

花開きたり
實結びたり

開きたる花
實ぞ結びたる

花こそ開きたれ
實を結びたれ

作用ノ連用ヲ兼ク
つ 斷

作用ノ連用ヲ兼ク
つる 連體

作用ノ連用ヲ兼ク
つれ 已然

春も過えつ
秋も暮えつ。

折りつる紅葉
誰が挿えつる

我こそ聞きつれ
我こそ言ひつれ

此つつるつれハ共ニ其兼ル作用ノ活辭ニ過去ノ時ヲ見ス者トス

將來辭

將來辭ハ「教へむ。」「習はまし」ノむ。まし。ノ如ク作

用ノ活辞ニ附テ其業作ニ未來ノ時ヲ見ス ニ用フル者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
（む）段 截斷 連體

此む。ハ其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
（め）已然

此め。ハむ。ノ轉音ニテむ。ノ用フル所ノ作用ノ活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

風こを吹かめ。
花こを散らめ。

（どもニテ兼ル片ハむ。ヲめ。ニ轉ズ）

（こそノ結辞ニ云フベキヲこそノ結辞ニ用フルトキハ、めニ轉ジ又兩辞ノ

友を誘はむ。
人に語らむ。

作用ノ將然ヲ兼ク
（む）段 截斷 連體

此む。ハ其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
（も）截斷

（作用ノ將然ヲ兼ク
（な）截斷

今は如何に為も。
音のみ哉泣かも。

紅葉た折らな。
遊び暮らさな。

此もハめ。ト同ジクむ。ノ轉音ニテ古言ニ用フ又なモ同ジク古言ニ於テむ。ニ代用ス而ノ共ニ其兼ル所ノ作用ノ活辞ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
（ま）連用 假體

聞かま。欲ま
言はま。欲ま

此まハむ。めも。ト同ジク麻行ノ音ノ將來ヲ云フ一個ノ辭ニテまヨ。ヲむ。めも。ニテミナラズ元真ニ同ジト云フハ特リ通音ニ因ルノミ集ニ「身の憂き事も傳へまハ欲ハまし」ト其餘モ「見まほ。欲まし」「聞かまほ。欲まし」「問はまほ。欲まし」ノ類ノ如ク辭義全ク同ジケレドモ「言はまほ。欲まし」ト云ヒ而ノ次ノまくハ此まハノ形狀變格ニ移テ成レリル者其兼ル所ノ作用ノ活辭ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
まく 連用 假定 斷定 連體

荒れまくも惜ヲまく
見まくの欲きき

作用ノ將然ヲ兼ク
まま 假定 斷定 連體

問はままし
聞かままし

此まくまハ上ノまハノ形狀變格ニ係リテ其活用ヲ為シタル辭ニテむ。ト同ジク其兼ル所ノ作用ノ活辭ニ於テハ未來ノ時ヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
まませば 連用

此まませばモ上ノまハノ作用變格ノ為ニ係リ為ヨリば。一種ニ係レル辭ニテまハ。ノ作用變格ノ為ニ係レル辭ナルヲ係リ更ニばモ「言はまませば」ト云フニ因テ「言はまませか然らば」ノ意ニまま等ノ將來辭アリテ應ズルハ勿論ニテ言はまませばト言はまませばハ同ジ意ニテ必ズ下句ニ其兼ル所ノ作用ノ活辭ニ未來ノ時ヲ見ス者トス

言はませば
在らませば

此な。ハ過去辞ノぬ。ノ働ケル辞ニテ格ノ本ト作用変ル。ぬ。ト活用スル辞ニテ其ノ格ニ係レバ此れハ将然ノ格ニ非ザレバ過去辞中ニ収メにぬ。ぬるぬれ次ノなむ。なめ等ハ皆此な。ニむ・め・将来辞ノむ。め。等ヨリモ一歩深ク将来ニ進メルㇾ猶過去ニ大過去アルガ如シ而メ将来ト過去トハ固ヨリ相反スト雖モ其相距ルㇾ愈遠キニハ却テ復タ遥ニ相通フ理アルヲ以テ今此理ヲ開令音ト合音トハ其軽重固ヨリ相反スト雖モ開ノ始ノ音ト合ノ終ノ音トハ隣近ノ音ニテ却テ親ク相通フ

花開き（ケ）を。ば見む（ミ）
實を結び（ムス）なま未

シガ如過去辞ノけむト将来辞ノなむト花は開きけむ花は開きなむ過去辞ノけめト将来辞ノなめト花は開きけめ花は開きなめハ髪トシテ相似タルガ如シ又此な。ハ否不辞ノぬ・で・ニ係ルㇾアリ左ノ如シ

なぬ！　後撰集ニㇾ道知らでやみやは去ぬ逢ふ阪の関のあなたは海といふ

なで！　古今集ㇾ我身をうらみるめかる知らねばやかれなで蜑の足たゆく

なぬなで！ハ活辞ノ時ヲ見スニハ非ザレドモ否不辞ニ係ルハ僅ニ此二辞ノミナルヲ以テ姑ク此ニ収

ム

作用ノ連用ヲ兼ク
（なむ）　終断連體

此なむハ上ノなゝニむ・將來辭ノ添ヘル辭ニテ作用言ヲ兼レバ其活辭ニむ・ニ係ルヨリモ尚深キ未來ノ時ヲ見ス者トス而ノ此なむ

作用ノ連用ヲ兼ク
（なめ）　已然

辭ノなむニテ「宿（ヤド）らなむ」「遊（アソ）ばなむ」ノなむナリ然レドモ命令辭ノハ將然ヲ兼ル格ニテ將來辭ノハ連用ヲ兼ル格ナレバ其同辭タルヲ以テ紛フルコト勿レ

去來宿（イザやど）りなむ
去來遊（イザアソ）びなむ

今日こそ出（イ）でなめ

（なまし）　假體　終斷連體

此なめなまし・モ上ノなゝニめ・將來辭ニテ其兼ル所ノ作用ノ活辭ニ於テハ單ニめ・ニ係ルヨリモ尚深キ未來ノ時ヲ見ス者トス

明日（アス）こそ徃（イ）きなめ
風（かぜ）吹（ふ）きなまし
花（はな）散（ち）りなまし

作用ノ連用ヲ兼ク
（なば）　將然

或ハなまし・ノ添テ成レル辭ニテ其兼ル所ノ作用ノ活辭ニ於テハ單ニめ・ニ係ルヨリモ尚深キ未來ノ時ヲ見ス者トス

學（マナ）びなば
習（ナラ）ひなば

此なばハ上ノなゝニば・接續辭ノ添テ成レル辭ニテ其兼ル所ノ作用ノ活辭ニ於テハ單ニば・ニ係ルヨリモ尚

深キ未來ノ時ヲ見ス者トス

否不辭

否不辭ハ「見ぞ。」「聞かぞ。」「言はぞ。」「語らぞ。」「ノぞ。」ノ如ク作用ノ活辭ニ附テ其業作ノ否ヲ見スニ用フル辭トス

（ぞ）作用ノ將然ヲ兼ク連用假體截斷

人も來ぞ。
我も往ぞ。

此ぞ。ハ稀ニ嘆辭ノかもニ係ルアレバ萬葉集ニ「風吹かぞかも」連體ノ格ヲ有テル如シト雖モ普通ノ例トハ為ス可ラズ又一種接辭ノばニ係テぞ。萬葉集ニ「戀ひつゝあらぞ。ば」ト云フアルヲ以テ將然ノ格ヲモ有テリト觀ル者アラン然レドぞ。ニ係ルぞ。ハ此ぞ。ニ非ズシテ「ぞあら」ノ約レルぞ。ヲざ。ニ約メらヲ省テ更ニざ。ヲぜ。ニ轉ゼシ者ニテ其例ハ形狀一ニ變形ニ同ジ者ナル「現在辭ノて。ヲば。ニ係テてば。ト云フニ同ジ故ニ「あらぞ。ば。」ハ「あらぜあらば」ノ意萬葉集中ニ「くに人を在らぞ。ば。酒壺に成り」「住まぜ。ば。」ハ「住まぜあらば」ノ意萬葉集ニ「こと繁き里に住まぜ。ま事もの」ニ「今朝鳴きま雁に類ひて徃きまを」

作用ノ將然ヲ兼ク「ざら」將然

拂はざらむ
外らざらむ

作用ノ將然ヲ兼ク
ざら 連用 撥音ノ下ノ仮名ヲ略ス

作用ノ將然ヲ兼ク
ざる 截斷 連體

此ざら‖ざり‖ざるへ「ぞあ」ノ約レルざ。ノ良行ノ四段ニ働ケル辭ニテ其兼ル作用ノ活辭ニ於テ業作ノ然カアラザルヲ見ス者トス

作用ノ將然ヲ兼ク
ざれ 已然 命令

此ざれモ「ぞあ」ノ約レルざ。ノ良行ノ四段ニ働ケル辭ニテ其兼ル作用ノ活辭ニ於テ業作ノ然カアラザルヲ見ス而メざれ‖ハ四段ノ第四音ニ係ルヲ以テ又命令ヲ示ス

訪はざう‖き
呼ばざう‖き

讀まざる書
誰か讀ざる

驚こそ鳴ざれ
花は散らざれ

作用ノ將然ヲ兼ク
ざ 假體 截斷 連體

我は欺かざ。
人は誘はざ。

作用ノ將然ヲ兼ク
ぬ 連體

誰か知らぬ。
馴れぬ作業

作用ノ將然ヲ兼ク
ね 已然

花こそ開かね。
色こそ見えね。

作用ノ將然ヲ兼ク
で 連用

曇らで。零る

此ぢ。ねぢ。ハ皆其兼ル作用ノ活辞ニ業作ノ然カアラザルヲ見ス者トス。

（に）連用　作用ノ将然ヲ兼ク

零らで。髪る

此に。ハ上ノぜ。ノ轉音ニテ現在辞ノて。ノ轉音ナルと。ニ係ルキぜ。ヲに。ニ轉ジテ用フル古言ノ一格ナリ故ニ其否不ヲ見スモ亦ぜ。ニ同ジ

飽かに。と「飽カズ」ノ意
言へば得に。「言ヘバ得ズ」ノ意

疑辞

疑辞ハ「誰れ」「如何（イカ）ニ」「人（ト）や。来る」「我（ア）や。往（ユ）く」ノ如ク疑詞ヲ示スニ用フル辞トス而メ此辞ハ上ヲ兼ケ下ニ接グベキ格ヲ有ッ者ト虚體言ノ如ク其活用無キ者トノ二類アリ今先ッ活用無キ辞類ヲ擧グ

いか	いつ	いづら	いづれ
たれ	たが	なに	いく

上下ニ関係ノ格ヲ有ッ疑辞ハ其數十一個ニメ左ニ示ス如シ

實體虚體代名ト作用ノ連用假體已然トヲ兼ク

（か）連用

實體虚體代名及ビ形狀ノ假體ト作用形狀ノ連體トヲ兼ク

（か）截斷

今か。開（サ）くらむ
今か。吹（フ）くらむ
零（フ）るは時雨（シグレ）か。

實體虛體代名ト作用ノ連用濁體已然トヲ兼ク
（かも）連用

照るは紅葉（モミヂ）かも。

實體虛體代名及ビ形狀ノ假體ト作用形狀ノ連體トヲ兼ク
（かも）截斷

獨（ヒト）りかも寢（ネ）む
雪（ユキ）かも零（フ）れる

人（ヒト）見（ミ）けむかも
零（フ）るは花（ハナ）かも

か。ハ本ト一個ノ辭ナレドモ兼ル辭ノ異ナルニ因リ其格ノ連用ト截斷トニ變ズルヲ以テ各別ニ之ヲ舉ゲかもやもノ如キモ皆此例ニ準フ而ノ連用ノか。ハ嘆辭ノやニ係（カケ）テかやト云フ「アルハ春かけて來（キ）ぬ」小大君集ニ「鳥とか。や見な」玉葉集ニ「別るべき時か。や」假體ヲ兼タルヲ以テナリ截斷ノかもト云フ辭ハ出來タルナレバ各辭ノ下ニ其格ヲ記サヾル者ハ連用截斷ノ假體ノ格アルが故ニ二格ノ差別ヲ示スヲ主ト為シヲ以テナリ

各種ノ體言ト作用形狀ノ連體及ビ作用ノ已然トヲ兼ク
（や）連用

去年（コゾ）とや。言（イ）はむ
今年（トシ）とや。言はむ

作用形狀ノ截斷ヲ兼ク
（や）截斷

見（ミ）ゆや。見（ミ）ぬや。
有（ア）うや。無（ナ）きや。

各種ノ體言ト作用形狀ノ連體及ビ作用ノ已然トヲ兼ク
（やも）連用

花（ハナ）とやも見（ミ）む
雪（ユキ）とやも見む

作用形狀ノ截斷ヲ兼ク
（やも）截斷

嬉（タハ）れやも
悲（カナ）しやも

此。や。も 假體ヲ兼タルカ。ニ同ジ連用ノや。ハ截斷ヲモ兼タリ故ニからむ

ニ係ルアリ千五百番歌合ニ谷隠れ木の葉が下らむ音ブれも為ぬしノ如シ然の埋れ水こほればやレバ更ニ截斷ノやハ掲グマジキニ似タリト雖モ却テ截斷ノやハらむニハ係ラズ是レ亦や。ノ一格ナリ

實體處體代名ト作用ノ假體各作用形狀ノ連體トヲ兼ク

など 連用 假體

各種體言ト作用形狀ノ截斷連體トヲ兼ク

なにと 連用 假體

各種體言ト作用形狀ノ連體トヲ兼ク

いかに 連用 假體

遙けきやなぞ
寂寥さやなぞ

など答むらむ
など思ひけむ

いかに言はむ
いかに為まし

此などヲ體言ノ尾ニ附レバ複數ヲ見」スモ疑辭ニシテ明ニ其一物一事ヲ指示セザルヲ以テナリ又いかにハ上ノいかニ指示辭ノに・ノ添ヒタル者ナリ

反辭

反辭ハ「來べき春かは」「香やは隠るる」ノ如ク動作ノ意ヲ其裏ニ反スニ用フ而メ此辭ハ本ト疑辭ト同辭タリト雖モ疑辭ハ其用法ニ因テ作業ニ反動ヲ見スルアルヲ以テ更ニ茲ニ再出シテ反辭ノ名ヲ命ズ

誰か。仰がぬ「誰モ仰ガヌノ意」
誰か。願はぬ「誰モ願ハノ意」
戀ぞあらめか。「戀ヒ有ルノ意」

(か) 連用

(か) 截斷

かも　連用

かも　截斷

かは　連用

かは　截斷

や　連用

慕(シタハ)をあらめか「慕ヒノ意有」

誰(タレ)かも仰(アフ)がぬ「誰モノ意仰」

誰(タレ)かも願(ネガ)はぬ「誰モノ意願」

誰(タレ)かは仰(アフ)がぬ「誰ノモノ意仰」

慕(シタハ)ざらめかも「慕ヒノ意有」

戀(コヒ)ざらめかも「戀ヒノ意有」

誰(タレ)かは願(ネガ)はぬ「誰モノ意願」

戀(コヒ)ざらめかは「戀ヒノ意有」

慕(シタハ)ざらめかは「慕ヒノ意有」

思(オモ)ひや。かけ去「思ヒノ意戀」

や　截斷

やも　連用

やも　截斷

やは　連用

やは　截斷

惜(ヲシ)くやあらぬ「惜ク有ノ意」

花と見(ミ)まさやも。「花ノ意見」

月とは見(ミ)めやも。「月トハ見ノ意」

思(オモ)ひやもかけ去「思ヒノ意戀」

惜(ヲシ)くやもあらぬ「惜ク有ノ意」

花(ハナ)と見(ミ)まさやも「花ノ意見」

月(ツキ)とは見(ミ)めやも「月トハ見ノ意」

思(オモ)ひやはかけ去「思ヒノ意戀」

惜(ヲシ)くやはあらぬ「惜ク有ノ意」

花(ハナ)と見(ミ)まさやは「花ノ意見」

兩辭

兩辭ハ「友(トモ)と讀む」「友(トモ)も習ふ」「行(ユ)きながら語(カタ)る」「語(カタ)りつゝ行(ユ)く」ノ「と。も。ながら。つゝ」ノ如ク二人ノ作業ヲ一辭ニ示シ或ハ二個ノ作業ヲ一辭ニ見スニ用フル辭トス

各種ノ體言ト作用形狀ノ連用連體トヲ兼ク

(も) 連用假體

作用ノ連用ヲ兼ク

(つ) 連用

月(ツキ)とは見(ミ)めやは「月トハ見ズ」ノ意

彼(カレ)も。學(マナ)べり

我(ワレ)も。學(マナ)ばむ

見(ミ)つゝ我(ワレ)來(キ)ぬ

聞(キ)つゝぞ來(コ)ぬ

此つゝハ過去辭ノつ。ノ二個重リテ成レル辭ノ過去辭ノ活用ト為スナリ非ナリ故ニ「見つゝ來ぬ」ハ「見つ。見つ。來ぬ」ノ意ナリ

各種ノ體言ト作用形狀ノ截斷トヲ兼ク

(と) 連用假體

樂(タノ)しと。思(オモ)はむ

燃(モユ)ると。滅(キユ)ると。

此と。ニ「とも」ト云フ意ノと。アリ堀川院後百首ニ「画(エ)にかくと。筆も及(オヨ)ばず」画ニカク時モ筆及バジノ意蜻蛉日記ニ「穗に出でたりと。かひやなからむ」穗ニ出デタリト誰ヤナノ意「而ノ此と。ハ截斷ヲ兼ル格ナレ𪜈彼此相對スル與(ト)字ノ意ニ用フル片ハ連體ヲ兼ク拾遺集ニ「日の内に再び物

を思ふかな（疾く明けぬると。遅く暮るると。）遺集ニ「出づると。も入るとっも見えで足引の山の岑上にとめる月哉」又稀ニハ彼此相對セザルニモ用フルモアレ（日本紀ニ所率流止トモ）（續日本紀ニ燃ルトモ）忠峯集ニ「一般ノ例トハ為ス可ラズ又強ク云フ片ニ用フル「吹きと。吹く」「零りと。零る」ノ如キと。ハ「吹き」「零り」ノ連用ヲ兼タル

作用ノ截斷ヲ兼ク（とも）連用假體

ニハ非ズシテ其假體ヲ兼タル者ナリ

暮るとも往かむ
明くとも去なず

此ともハ截斷ヲ兼ル格ナルニ體言ヲ兼タルニ似タル者アリ（日本紀ニ「禹ノ卷ニ「豆麻佐ハ神と」も神と」も嬉れまと」も嬉れまし）然レ

ドモ其ともハと。ニ嘆辭ノも。ノ添レルニテ此雖。字ノ意ノともトハ異ナレバ同辭タルヲ以テ紛フルコト勿レ

作用ノ連體ヲ兼ク（なべ）連用假體

各種ノ體言ト作用形狀ノ連用連體トヲ兼ク（だに）連用假體

各種ノ體言ト作用形狀ノ連用連體トヲ兼ク（さへ）連用假體

各種ノ體言ト作用形狀ノ連用連體トヲ兼ク（そら）連用假體

風吹くなべに
聲聞くなべに

曇りだに為よ
勉めだに為よ

夜さへ愁はぜ
晝さへ眠ぶる

女子そら勉たり
童子そら為ま得

此辞ハ「ナレバ。ヲ」ト「ノヲ。ソレゴメ」ノ意ナルトノ二個ノ別アリ「ナレバ。ソ」ノ各種ノ體言ト作用ノ連用トヲ兼ネ

ながら　連用　假體

ケ形状ノ辞ハ單辞ノ原語ト連體ト複辞ノホカヲ兼ク

「ソノヲ。ソレゴメ」ノ各種ノ體言ヲ兼ク

作用ノ已然ヲ兼ク

ど　連用　假體

作用ノ已然ヲ兼ク

ども　連用

分量辞

分量辞ハ「此れほど」「其れば‖かり」ノ如ク其事物ノ分量ヲ示スニ用フル辞トス

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク

ほど　連用　假體

身のほど

女ながら強ち

枝ながら折れ

呼べど。答へぞ

見れど。飽かぞ

呼べども答へぞ

見れども飽かぞ

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク

のみ　連用　假體

家のほど

此人のみ

此事のみ

各種ノ體言ト作用形状ノ連體トヲ兼ク

まで　連用　假體

水の沸く‖まで

火の燃るまで

此辞ハ「ノミ」ト「ホど」ト「マデ」トノ意ニ云フ三個ノ別アリ「ノミ」「ホど」ハ各種ノ體言ト作用形状ノ連體及ビ作用ノ截断トヲ兼ケ「マデ」ハ實體

ばかり　連用　假體

此まで‖ハ古クハ截斷ヲモ兼タレド萬葉集ニ「雉鳴く‖で」又「みづく白珠、採りて来‖までに」普通ノ例トハ為ス可ラズ

是れば‖かりなり

今夜ばかり往む

虚體中ニ云ト云フ類ノ數ノ時尾ヲ兼ク

つ　連用　假體

一つ。

此つ。ハ數ノ一ヨリ九マデノ辞尾ニ附テ十位百位千位ノ尾ニ附テ呼ブニハ通音ノちニ移ス例ナリ即チ

はたち。玉葉集ニ「はたちあまりいつつ」

よそぢ。源氏若菜巻ニ「今年いそぢあまりふたつ」

むそぢ。堀川百首ニ「みそぢあまりふたつ」

ももそぢ。後拾遺集ニ「ももちあまりやそぢ」

ももち。堀川百首ニ「みそぢあまりふたつ」

ももちむそぢ」

ちは海にあるものなり」

このそぢ扶桑拾葉ニ「君が經む千代ももち。後拾遺集ニ「このそぢ」

ももちいそぢ」ニたるももち。後拾遺集ニ「ふたももみつちとをあまりやつ」

ももち。堀川百首ニ「みつちむそぢ」

ももちむそぢ」

やそぢ。土佐日記ニ「なそぢやそぢ」

なそぢ。土佐日記ニ「なそぢやそぢ」

むそぢ。堀川百首ニ「なそぢやそぢ」

ぢの黄金」此ちハ其物ノ多數ヲ呼ブ辞ニテ必シモ千位ヲ云フニハ非ザレドぢノ尾ニ附タルぢハ數辞ノプノ轉ゼシニテもももノ如シ而ノ此ぢハ音便ニちノぢニ異ナルナシ

テ濁音ニ呼ブト清音ニ呼ブトノ別アリ十位ニ附ルニハ濁音ニ呼ビ但シ二十ヲはたちト呼バズ百位ニ附ルニハ清音ニ呼ビ千位ニハ又濁音ニ呼ブ例ナリ

想像辞

想像辞ハ「彼は書を讀むらむ」「雨零らば來ぎ」「月出でば去ぬまじ」ノらむまじノ如ク作用ノ活辞ニ附テ他ノ作業ヲ想像シ或ハ想像スル所ノ事物ノ形状ニ因テ不切實ナル作業ヲ見ス

用フル辭トス

作用ノ截斷ヲ兼ク
らむ　截斷連體

作用ノ截斷ヲ兼ク
らめ　已然

作用ノ截斷ヲ兼ク
らえ　截斷連體

作用ノ截斷ヲ兼ク
めり　連用截斷

作用ノ截斷ヲ兼ク
めるー　連體

神ぞ知るらむ
紅葉為ぬらむ

今こそ零るらめ
今こそ晴るらめ

冬來たるらえ
雪ぞ零るらえ

花は開くめり
月も照るめり

風ぞ吹くめる

作用ノ截斷ヲ兼ク
めれ　已然

此めりめるめれヲ「みえ」ノ約レルめ。ノ良行ノ四段ニ働ケル者ナリト云フ説アリ若シ此説ノ如クナラバめらトモ云フベキ辭ノアルベキヲ活語指南ニハ已ニめらトモ舉タリ古來其辭ナキハ「みえ」ノ約ナラザル明徵ナル可シ然レバ此めりハ將來辭ノめ。ノ良行ノり・る・れニ係レルナラン而メ良行ノら・ニ係ラザル者ハら・ハ將然ノ格ニテめ。モ亦將來辭タレバ二個ノ將來

露ぞ置くめる
汝こそ往くめれ
彼こそ去ぬめれ

辞ヲ相重ヌベキ理ナキニ因ルナル可シ猶此辞ハ大文典ニ於テ詳論ス又めれヲ自己ノ作業ニ附タルモアレドモ兼輔集ニ「足引の山のかけはふみのぼりけふこそ峰の花はおるめれし猶他ノ作業ノ及達スルニ因テ然ル者ナレバ他ヲ想像スル辞義ニ於テ異ナルコト無シ

作用ノ將然ヲ兼ク　まほまざ　連體

作用ノ將然ヲ兼ク　まほまざ　截斷

敢へまほまざ

此ニ一辞ハ續日本紀ノ詔詞ニ見エテ續日本紀ノ詔詞ニ「已我得麻之

得エまほまざき

宇岐之時止為ヨー又「散末ハ將然ノまほまざきノ否不辞ノまざニ係レル者ニテまほまざきハまほまざノ形狀變格ニ働ケル者ナリ（まほまざくまほまざき必ズ然カ云ヒツベキ理ナリ未ダ其例ヲ見出ネドモ）而メ次ノまざまざくまほまざきノ如キハ此辞ノ約リテ成レル者ナリ然レドモ其兼ル所ノ格ノ變ルハ（まほまざハ將然ヲ兼ケまざハ截斷）クヲ兼已ニ一個ノ辞トシ成レル上ハ縱ヘ約タル辞ナルモ其格ノ變ル可キハ自然ノ理ニテ怪ム可キニハアラザルナリ（譬ヘバとも（ども）ノ如キハ共ニ雖ノ字ノ義ニシテ其タグヒ兼ル所ノ格ヨリ清濁ノ變ヲ生ズル如シ）

作用ノ截斷ヲ兼ク　まざ　截斷

為去得まざ

作用ノ截斷ヲ兼ク
〔まざく〕連用

作用ノ截斷ヲ兼ク
〔まざき〕連體

此三辭ハ上ノまゑざまゑざまゑざきト同ク作用言ヲ兼レバ其活辭ニ皆他ノ事物ヲ想像セル不切實ナル作用ヲ見ス者トス

決定辭

決定辭ハ「褒(ホ)むべき事(コト)ぞ」「感(カン)ぜべき志(コヽロザシ)なり」ノ如ク

堪(タ)へ得(エ)まゑ
勉(ツト)むまゑく見(ミ)ゆ
勵(ハゲ)むまゑく思(オモ)ふ
讀(ヨ)み得(エ)まゑきぞ
書(カ)き得(エ)まゑきぞ

活辭ニ見ル、時ハ未來ニナリ或ハ想像ヲ呼ブニ似テ決定ノ義ニ乏シト雖モ然レバ其未來ニナリ想像ニ似ル所ノ動作モ遂ニ然ラザル事能ハザル事理ナルハ作業ニ先テ已ニ疾ク決定セルヲ以テ又「往(ユ)くべゑ」「聽(キ)くべゑ」ノ如ク命令ヲモ示シ得ル者ナリ故ニ辭義ヲ說キ來レバ將來辭ニモ收ムル可ラズ想像辭ニモ入ル可ラザルヲ以テ姑ク此名ヲ命ジテ一辭ニ置ク

作用ノ截斷ヲ兼ク
〔べら〕假體

聞(キ)きぬべらなり
知(シ)りぬべらなり

作用ノ截斷ヲ兼ク
〔べく〕連用

堪(タ)ふべく思(オモ)ふ

作用ノ截断ヲ兼ク
べき　截断

作用ノ截断ヲ兼ク
べき　連體

作用ノ截断ヲ兼ク
べみ　連用

此辞ハ。ト云フ原語ノ形状變格ニ働ケル者ニテ。ト。ト云フ一辞ノ証ハ未ダ見出ズト雖モ形状ニ活用スル辞類ハ皆其原語ァルヲ以テ推スヒハ必ズ無ル可ラザルナリ。べら。ノら。ハ助辞ノら。ニテ假體ノ格ナレバ現在

忍ぶべく見ゆ
告げバ悦ぶべき
語らバ驚くべき
今ぞ見るべき
今ぞ聞くべき
開くべみ
散るべみ

辞ニ係ルナリ又べみハ形状ヨリ麻行四段ニ移レルみ。ニテ「寒み。」「薄み。」ノ如ク此事物ヲ彼事物ニ準ル業作ヲ示スニ用フル辞トス

形状ノ變化ノミ。ニ同ジ

作用形状ノ連體ヲ兼ク
ごと　假體

此准辞

作用形状ノ連體ヲ兼ク
ごとく　連用

此准辞ハ「彼は花のごとき」「此は雪のごとき」ノ如ク此事物ヲ彼事物ニ準ル業作ヲ示スニ用フル辞トス

春のごと長閑き
秋のごと寂寥き
珠のごとく瑩く
夢のごとく覚ゆ
月光は晝のごとき

作用形状ノ連體ヲ兼ク
ごとき　截断

作用形狀ノ連體ト兼ク
（ごとき）連體

助辭

助辭ハ「紀の関守（セキモリ）い。」「花を去。見（ミ）れば」ノい。ノ如ク其句ノ助ニ用フルノミニテ意義ナキ辭トス然レドモ次ノ句頭接辭ニ収タル發語ニ類セル者トハ異ニシテ其上下ノ兼接ニ於ルハ全ク他ノ接辭ニ同ジ

實體虛體代名ト作用ノ假體連用連體ト兼ク
（い）連用連體

落葉（オチバ）は雨のごとき
雪（ユキ）のごとき霜（シモ）
烟（ケブリ）のごとき霧（キリ）

實體虛體代名ト形狀ノ連體ト兼ク
（ろ）假體連體

夜（ヨ）の間（マ）ろ。
悲（カナシ）きろ。哉（カナ）

實體虛體代名ト形狀ノ連體ト兼ク
（ら）假體連體

子（コ）をら。
麻苧（アサヲ）ら。

實體虛體代名ト作用ノ假體連用連體ト形狀ノ連用ト兼ク
（去）連用

此三辭ハ上古ノ語法ニ在ル者ニシテ中古以來用フルコトナシ而ノ此ろ。ハ指示辭ノなもヲ兼テなもろ。ト云ヘルコトアリ萬葉集ニ「思（ほも）ろ。」

寒（サム）く去。在（ア）れば
人（ヒト）を去。見（ミ）れば

此去。ハ指示辭ノのニ係ルコトアレバ萬葉集ニ「誰（タレ）ぞ彼（カレ）の人も君には優（まさ）

「ぎ」假體ノ格ヲモ兼タルカ然レドモ未ダ一般ノ例ニハ為ス可ラザルガ如シ

実體虚體代名ト作用ノ假體連用連體ト形状ノ連用トヲ兼ク
（未も）連用

此未もニ紛フ者アリ即チ「忘れも為む」古今集ニ「とか心に忘れ未も為む」「待ぞ未もあらぞ」古今集ニ「たてふにたり待ぞ未もあらぞ」「おもらぞ」ノ未もナリ此ハ前ノ未ノ両辞ノもニ係レルナレバ「忘れも為む」「待ぞもあらぢ」ノ意ナルヲ助辞ノ未もト觀ルトキハ「忘れ為ぢ」「待ぞあらぢ」ノ義ニ落テ辞意ヲ謬ル可シ又指示辞ノこそノ意ニ

秋を未も待つ
月を未も見む

通フ「時未もあれ」「節未もあれ」ノ未もモ前ノ未もニ同ジ

形状言ノ〜ぺ。ト指示辞ノに。現在辞ノ〜と。ノトヲ兼ク
（を）連用

過去辞ノ〜き。ノおト助辞ノ〜お。トヲ兼ク
（く）連用
假體

見つゝを。行む
濡れてを。居む
珠拾ひ未く。
思へり未く。未

此〜ハいろ。ト同ジク上古ノ語法ニ在ル者ニシテ中古以來ハ之ヲ用ヒズ而ノ「珠拾ひ未く。」ノ未ハ過去辞ニテ萬葉集ニテ見エテ此未「珠拾ひ未く。ハ即チ過去ノ時ヲ見ス未ナリ故ニ「曾テ珠ヲ拾ヒ未く共ニ事ヲ常ニ忘ラレズ」ノ意ナルヲ辞玉緒ニ未く助辞ト為ラレシハ謬ナリ

「思へり（オモ）き。く。き」ノき（き面影に見ゆ」ト在リテ故ニきくきヲ除テモ辞意ハ此きハ即チ助辞ノ、きくヲ助辞ト為シテ「思へりき」ハ其きハ過去ノ時ヲ見スト説タリ然ルニ曽テ吾妹子ガ思ヘリシ事ノ面影ニ今ハ已ニ思ザル義トナレバ萬葉ノ歌ノ意トハ大ニ異ナルヲ知ルヘシ

（つ）實體虚體ヲ兼ク連體

此つハ指示辞ノの。ニ通フ辞ナレドモ其意義ナキヲ以テ姑ク助辞ニ収ム

天つ（アマ）神

國つ（クニ）社

近世ノ語格書ノ中ニ此助辞ノ「花をき（分）。見れば」ノき（キ）も「見つゝと。行（ユカ）む」ノき。「雪きもぞ（キ）零（フ）る」ノきも「見つゝと。行（ユカ）む」ノき。ノ三辞ニ作業ヲ強ク云フ義アリト説ル者アリ抑助辞トハ辞句ノ助ニ用ヒテ之ヲ除クモ其義ヲ失フ「無キ是レ助辞ノ通例ニシテ古書ニ載ル所皆然ラザルナシ故ニ「花をき。見れば」「雪きもぞ（キ）零（フ）る」ノ如キきもヲ除クモ其意義ヲ害スルナシ然ニ両辞ノと。ノ作用ノ假體ヲ兼テ「零（フ）り。と。零（フ）る」「行（ユカ）きと。行（ユカ）く」ノと。ノ如キハ其作業ヲ強ク云フニ用フル辞ナルヲ以テ之ヲ除ク「能ハズ是レ其助辞ト助辞ニ非ザルトノ明徴ナリ

句頭接辭

句頭接辭ハ兼ル辭ナクシテ直ニ句頭ニ見ル、辭類ノ總稱ナリ而メ此辭ニ「い。徃ク」「た。忘ル」ノいた。ノ如ク發語ニ用ヒテ意義ナキ者ト「なはち讀む」「そこぶる寒ま」ノそなはちそこぶるノ如ク體言ノ形ヲ成セル者トノ二種アリ其發語ニ用フル者ハ左ニ出スガ如シト雖モ體言ノ形ヲ成セル者ハ辭數頗ル夥多ナレバ今其一二ヲ擧テ例ヲ示ス

體言ノ形ヲ成セル者（此辭ノ格ハ連用假體辭ニ因テ少差アルベシ）

み　おほみ　なはち　そこぶる　まべからく

此みおほみハ句頭ニ置テ其物或ハ其事ヲ崇敬スル用フル擧みハ「常ニ御ノ字ヲ用フル辭ニテ次ニ雪」ノみト異ナリ而メおほみハ大御ノ義ナルヲ中古以來ハ音便ニ因テ常ニほゝトぼゝト呼ブみヲんゝト呼ブ例ハ音便ノ條ニ說ヘリシ如シ

發語ニ用フル者

發語ニ用フル者ハ其數九個ニシテ其中いゝかた。まノ四辭ハ多クハ古言ニ在ルヒシ事アルベシ

（い）連用

い。向ふ

(い)連用 い。行(ユ)く

(た)連用 た。忘(ワス)る
(た)連體 た。速(ハヤ)み

(ま)連用 ま。幸(サキ)く
(ま)連體 ま。夜中(ヨナカ)

(み)連體 み。雪(ユキ)
み。空(ソラ)

(さ)連用 さ。夜更(ヨフ)く
(さ)連體 さ。夜更方(ヨフケガタ)

(か)連體 か。易(ヤス)き

(そ)連用 そ。馴(ナレ)る
(そ)連體 そ。馴松(ナレマツ)

(と)連體 と。田(タ)を
と。簾(ス)を

(け)連用 け。劣(オト)る
(け)連體 け。怕(オソロ)しき

(か)連體 か。黒(クロ)き髪(カミ)

一種接辞

一種接辞ハ上ニ擧ル所ノ各種ノ接辞中ニ入レ難キ辞類ニ命ゼシ名ナリ即チ「塙(ムラ)がね」「石(イハ)がね」「田舎(イナカ)より

「京都（ミヤコ）から」、がねようからノ類ヲ云フ

習（ナラ）はば。成（ナ）む

呼（ヨ）べば。答（コタ）ふ

作用将然已然ト指示辞ノオトラ兼ク

ば 恵用 仮體

此ば。ハ将然已然トヲ兼ル格ナルニ指示辞ノ実ハ清音ナレド姑ク舊説ニ因テ表ニハヲヲモノはナレド姑ク舊説ニ因テ表ニハヲヲモ兼クベキ状ニ掲タリ尚大文典ニ詳ナリ

ヲ兼テかば。ト云フハ後撰集ニ「山里に散りなまえらまち去」古今集ニ「唐土も夢に見まか。ば。撰集花句ふ威りも知られざ近かりき思はぬ中で遥けかりける」かノ下ニ然ら然れト云フ辞ノアルベキヲ省ケルナリ然れアト二辞過去ノ

ら然れト云フ辞ノアルベキヲ省ケルナリ然ラトニ辞ノ

ルハかノ兼タル辞ノ差異アルニ将来辞ノ生ズ

過去辞トノ兼タル辞ノ

例へバ「散りなまえ

か然らば」

将來辞ノ兼タルかナリ

「見」まか。然れば」

辞過去ノ

ル。ヲ兼タルかナリノ如シ尚此例ハかノヲ兩辞ノとどもニ係テ

かど。かどもト云フニ同ジ古今集ニ「終に往く道とは思はざりき」を「日とは思はざりき」春風に漂れに去袖と問ふ今は兼て聞まかどきのふ

どもモかノ過去辞ノぉレバ「然れ」ヲ省ケルなり又「音に泣てひなにまかどもは問はば答へむ」トアルかどもぉヲ兼タル者ナリ因云此ば。ノ否不辞ノねヲ兼タルねば。ト云フ辞ハぬにノ意ニ聞エルハ常ナレド新古今集ニ「まきむくの檜原も未だ曇らぬ小松が原に泳雪ぞふる」トアル「曇らぬ」ハ「曇らねば。」ト云ノ意ナリねば。ト通フノミナラズば。ノ已然ヲ兼タル者ト指示辞ノぃノ連體ヲ兼タル者トハ多クハ相通フナリ古今集ニ「五月雨に物思ひ居れば。時鳥夜深くくらむ」此「居れば。」貫之集ニ「居るに」ハ「居るに」ノ意ニ聞エ又「立つ年なれば。人は斯くそ

「春りもさりけれ」此「年なるに」ノ意ニ聞ヱル類ナリ

此辭ハ自。於。因ノ意ニ云フ二個ノ別アリ自。於ノ意ニ云フハ各種ノ體言ト作用形狀ノ連體トヲ兼テ自。ハ連用假體ノ格。於ハ連用ノミヲ兼テ連用ノ格ナリ因ノ指示辭ノ比ノミヲ兼テ連用ノ格ナリ

より　連用　假體

各種ノ體言ト作用形狀ノ連體トヲ兼ク而ノ體言ヲ兼ルハ自ノ意連體ヲ兼ルハ因ノ意ナリ

から　連用　假體

各種ノ體言ト作用形狀ノ連體トヲ兼ク

ゆゑ　連用　假體

實體及體ト作用ノ截斷連體トヲ兼ク

がね　假體

實體及體ト作用ノ截斷連體トヲ兼ク

がに　連用　假體

作用形狀ノ截斷ノ連體トヲ兼ク

か　去　截斷

作用ノ連用ト形狀ノ單辭ノハ去ヲ兼ク

け　假體

原語複辭ノ

此げ。ハ形狀單辭ニ入レタルげ。ナレド作用ノ連用ヲ兼ルヲ以テ更ニ此辭中ニ收ムル也作用ノ連用ヲ兼ル心有「りがほ」「物思ひがほ」等ノ「がほ」ニ因リげ。ニ轉ゼシ者ナルヲ以テ形狀ヲ兼ルナリ

人も見るがに　歸り來るがに

學びねか去　愛無まか去

心有りげ。　物思ひげ。

崇敬辭

崇敬辭ハ「讀(ヨ)みたまふ」「聞(キコ)はまねらもそ」「習(ナラ)ひたまふ」「教(オシ)へまねらもそ」ノたまふまねらもノ如ク作用ノ活辭ニ附テ其業作ニ敬意ヲ加フル辭トス而メ他ノ業作ニ附ル者ト自他ノ業作ニ兼渉スル者トノ三種アリ本ト此辭ハ作用ノ活辭ヨリ來テ普通ノ接辭トハ自ラ異ナリト雖モ其崇敬ニ用ヒントスルニ非ザレバ見ル、ヿ能ハザル辭類ニ係ルヲ以テ今此名ヲ命ジテ接辭ノ中ニ收ム

作用ノ連用ヲ兼ク 四段活辭 まそ

御坐(オハシ)まそ

此まそハ作用ノ四段言ニテ「あり(在)」「をり(居)」ノ義ナルヲ以テ他ノ為ス業作ニ附テ呼ブ時ハ其業作ヲ崇敬スル意ヲ見ス者トス此辭ハ「あり」「をり」ノ本タリト雖モ他ノ辭ノ尾ニ用フル時ハ普通ノ活辭ズ故ニ此まそヲ重テ「兼ルハ一種ノ崇敬辭ニ變去ハ「あり」「をり」ト云フ時ハ上ノまそハ其在リ居リト云ヿノ義ニテ下ノまそハ作業ヲ敬テ呼ブ義ニ變ズルナリ

作用ノ連用ヲ兼ク 四段活辭 たまふ

立出(タチイデ)まそ

學(マナ)びたまふ

習(ナラ)ひたまふ

此たまふモまそト同ジク作用ノ四段言ニテ物ヲ賜フ義ノ「たまふ」ナルヲ以テ他ノ為ス業作ニ附テ

呼ブ片ハ其業作ヲ崇敬スル意ヲ見ス者トス（此辞モ物ヲ賜フ義ニ用フル片ハ普通ノ活辞タリト雖モ他ノ辞尾ヲ兼ル片ハ一種ノ崇敬辞ニ變ズルコトまつるニ同ジ）

作用ノ連用ヲ兼ク　四段活辞　まつる

仕へまつる

抱きまつる

此まつるモ作用ノ四段言ニテ物ヲ獻ル義ノ「まつる」ナルヲ以テ自他ノ作業ニ附テ呼ブ片ハ其作業ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ見ス者トス（此辞モ物ヲ獻ル義ニ用フル片ハ普通ノ活辞タリト雖モ他ノ辞尾ヲ兼ル片ハ一種ノ崇敬辞ニ變ズルコトまつるニ同ジ）

作用ノ連用ヲ兼ク　四段活辞　たてまつる

傅きたてまつる

伴ひたてまつる

此たてまつるモまつると同ジク作用ノ四段言ニテ物ヲ獻ル義ノ「たてまつる」ナルヲ以テ自他ノ作業ニ附テ呼ブ片ハ其業作ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ見ス者トス（此辞モ物ヲ獻ル義ニ用フル片ハ普通ノ活辞タリト雖モ他ノ辞尾ヲ兼ル片ハ一種ノ崇敬辞ニ變ズルコトまつるニ同ジ）

作用ノ連用ヲ兼ノ　下二段活辞　まゐらす

送りまゐらす

迎へまゐらす

此まゐらすハ作用ノ下二段言ニテ物ヲ進ラスル義ノ「まゐらす」ナルヲ以テ自他ノ作業ニ附テ呼ブ片ハ其作業ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ見ス者

トス此辞モ物ヲ進ラスル義ニ用フル片ハ普通ノ活辞タリト雖モ他ノ辞尾ヲ兼ル片ハ一種ノ崇敬辞ニ変ズル「ヨ」ニ同ジ

作用ノ連用ノ条ク　四段活辞　はべる

此はべるハ作用ノ四段言ニテ侍候ノ義ノ侍候ノ義ナレバ又在リ居リノ「はべる」ナルヲ以テ自己ノ業作ニ附テ呼ブ片ハ其業作ヲ受ル者ニ對シテ崇敬スル意ヲ見ス者トス此辞モ侍候ノ義ニ用フル片ハ普通ノ活辞タリト雖モ他ノ辞尾ヲ兼ル片ハ一種ノ崇敬辞ニ変ズル「ヨ」ニ同ジ

作用ノ連用ノ条ク　下二段活辞　たまふ

抱きはべる
負ひはべる

我が聞きたまふる
我が思ひたまふる

此たまふハ作用ノ下二段言ニテ自己ノ作業ニ附テ呼ブ片ハ其作業ヲ受ル者ニ對シテ崇敬ノ意ヲ見ス者トス而ノ此辞ハ「見る」「聞く」「思ふ」ノ三個ノ動作ニ附テ呼ブヲ例トス

三品辞ノ格ト性質トハ上條ニ於テ已ニ論ジ畢レリト雖モ其相綴合シ相連續シテ文章ヲ成ス法ヲ熟知スルニ非ザレバ我心意中ニ存在スル所ノ論説技術願望好欲等凡百ノ思念ヲ記シテ之ヲ他人ニ告知スルヿ能ハズ夫レ文章ハ今古雅俗ノ體アリト雖モ之ヲ要スルニ一ニ我思念

ヲ他人ニ配與スル媒介者ニ用フルニ過ザルナリ而ノ同ク媒介ニ用フル文章ニ於テ雅文ノ俗文ニ優リ今文ノ古文ニ及ザル者ハ蓋其辭格語法ニ明ナラズシテ意義ヲ全達スルヿ能ハザルヿニ因ラザルナシ故ニ辭句綴屬ノ法ノ如キハ之ヲ大文典ニ詳悉スベシト雖モ今此篇ヲ終ルニ際シ一二ノ古歌ヲ解剖シ試ニ先ヅ語脈ヲ示ス

古今集

とし（年）のうち（内）に　はる（春）は　きにけり（來去）　ひとせ（一年）を　こぞ（去年）とやいはむ（言）　ことし（今年）と　いはむ（言）とやいはむ

（虛體言　指示辭　虛體言　指示辭）

とし（年）の。（虛體言）うち（内）に。（虛體言）

はる（春）は。（虛體言）きに（來去）。（指示辭）けり（過去辭）

ひとせ（一年）を。（合體言）

こぞ（去年）と。（體言）や。（兩辭）いはむ（言）。（疑辭）

いはむ（言）。（將來辭）

ハ體言ヲ兼テ用言ニ續キ。ニハ用言ヲ兼テ助動詞ノ連用言ニ續キ。ケリハ。ニ。ト云フ連用言ヲ兼テ切レタリ

ヲ。ハ體言ヲ兼テ下ノ句ノいはむト云フ作用言ニ續ケリ

と。ハ體言ヲ兼テ。や。ト云フ連用言ニ續キ。やハ。と。ト云フ連用言ヲ兼テいはむト云フ作用言ニ續

作用四段

合體言 ことま

と。や。 兩辭 疑辭

いはむ。 作用罫段

キむ。ハいはト云フ將然言ヲ兼テ切レタリ　將來辭

と。や。むノ格四ノ句ニ同ジ

此歌ノ五尓乎波ハ第二ノ句ハはノ係辭ヲリニテ結ビ「はるはきにけり。」一段ノ係辭　春　來　去　第四五ノ句ハやノ係辭ヲむニテ結べり「こぞとやいはむ。」「ことまとやいはむ。」「こぞ　去年　今年　言」二段ノ係辭ニテ結ビむ表ニんト記セル其レナリ

榮花物語

ふるさとを　いでにしのちは　つきかげぞ

故　鄉　出　後　月　影

合體言 ふるさと

を。 指示辭

むかしもみきと　おもひやらるる

昔　見　思　遣

を。ハ體言ヲ兼テ二句ノいでト云フ作用言ニ續ケリ

作用下二段 いでにし

過去辭

虛體言 のち

は。 指示辭

にしハいでト云フ連用言ヲ兼テのちト云フ體言ニ續キは。ハ體言ヲ兼テ五ノ句ノおもひト云フ作用言ニ續ケリ

合體言 つきかげ

ぞ。 指示辭

ぞハ體言ヲ兼テ五ノ句ノおもひト云フ作用言ニ續ケリ

虚體言
むかし　も　両辞
み　作用上一段　過去辞　両辞
き　と　両辞

作用四段
おもひ
作用下二段
やらるる

此歌ノ豆尓乎波ハ第四句ハもノ係辞ヲき。ニテ結ビ
五句ノ「むかしもみきと」（昔も見きと）一段ノ係辞ヲ第三句ハぞノ係辞ヲ第
五句ノるるニテ結べり「つきかげぞむかしもみき」（月影ぞ昔も見き）
とおもひやらるる」（思ひやらる遣）二段ノ係辞

もハ體言ヲ兼テみト云フ作用言ニ續キ。ハみト云フ連用言ヲ兼テもト云フ係辞ナレバ第三ノ轉ジつるニテ結ブ如シ　轉「月ぞ出づる」出ブハ作用ノ下二段言ニテはト云フ係辞ナレバ第三ノ轉ジノつるニテ結ビぞト云フ係辞ナレバ第四ノ轉ジノ形ノ如シ　美「花は美くし。」美くしハ形状ノ複辞ニテはト云フ係辞ナレバ第三ノ轉ジノ形ノ如シ　花「花ぞ美くしき」

ハ體言ヲ兼テみト云フ作用言ニ續キ。ハみト云フ連用言ヲ兼テもト云フ係辞ナレバ第三ノ轉ジノ形ノ如シ　花「花ぞ美くしき」

豆尓乎波ノ調

豆尓乎波ノ調ハ上句ニ屬タル係辞ヲ兼テ下句ニ於テ結ブ法ナリ例ヘバ「花ぞ開くなる。」「月こそ照るなれ。」ノ如クぞト云フ係辞アレバ必ズる。ト云フ結辞ヲ用ヒこそト云フ係辞アレバ必ズれ。ト云フ結辞ヲ用フル類トス而メ結辞ニ用フル辞ハ接辞ノミニ非ズ作用言アリ形状言アリ體上ノ係辞ニ從テ其辞尾ヲ變換ス乃チ「月は出づ。」「月を出づる」「花は美くし。」「花ぞ美くしき

志き」ニテ結ブ如シノ如シ総テ五尓乎波ノ調ハ續クヲ切テ各其一個ノ事物ニ呼ビ做ス法タルヲ以テ一個ノ作業或ハ一個ノ形容ヲ各其一辞ニテ呼ブ時ハ必ズ其辞ノ截断ノ格ヲ用ヒザル可ラズ乃チ「作業ノ出ヅル」ヲ云ヘバ「いづる」「形容ノ美クシキ」ヲ云ヘバ「うつくき」ノ類ナリ然ルヲ前ニ出づ。ハ月ハ出づ。ノ説タルハ同ジ係辞ニテモ花ハ美くお」ヲ以テハノ結辞ト辞尾ノ變換ヲ待ズシテモ結ビ得ベキヲ以テナリ故ニハ甚ダ軽クル可シ以テ知ル可シ然ニ「いづ」「うつくき」ト書ズシテ「いづる」「うつくき」ト記スヰハ其格ハ連體ナレバ下句ノ體言ニ連續スルヲ以テ五尓乎波ヲ誤ル者トス一個ノ作業ヲ一辞

ニテ呼ブ時ハ「出づる日」「出づる月」ノ如ク下句ノ體言ニ連續スルヲ以テ其辞ハ入ル隨ニ對シタル日月ノ形容ヲ云フ辞ニ變ズルヲヤ形上句ニ属キテ係辞トナル所ノ接辞ハはもぞや何こそノ七辞ニテ此中はもぞや見こそノ六辞ハ其第一格ヲ見ス者ナリ又はも直ニ體言ヲ承ル五辞ハ第三格ヲ見スニ第三格ノ下ニ属シ或ハ第四格ヲ見スニ第四格ノ下ニ属スルハクもをやをやにこそノ如シハ種々ノ辞アレド其軽重ニ因テ之ヲ三段ニ分ツ徒はもぞや何こそノ八個ノ係辞ヲ結ブニハをは此係辞ナキ者ヲ徒ノ五尓乎波ヲ云フ徒はもぞや何ノ四辞ノ結ビヲ第三段トス第一段ノ係辞も徒はハ二段トシこそノ結ビヲ第一段トシのぞや何ノ四辞ノ結ビヲ第

志き」ニテ結ブ如シノ如シ総テ乎尓乎波ノ調ハ續クヲ切テ各其一個ノ事物ニ呼ビ做ス法タルヲ以テ一個ノ作業或ハ一個ノ形容ヲ各其一辞ニテ呼ブキハ必ズ其辞ノ截断ノ格ヲ用ヒザル可ラズ乃チ「作業ノ出ヅル」ヲ云ヘバ「いづる」ノ如ク下句ノ體言ニ連續スルヲ以テ其辞ハ入ル「形容ノ美クシキ」ヲ云ヘバ「うつくしき」ノ類ナリ然ル可シ然ニ「いづ」「うつくしき」ト記スキハ其格ハ連體ナレバ下句ノ體言ニ連續スルヲ以テ乎尓乎波ヲ誤ル者トス

（一個ノ作業ヲ一辞ニ）

（前ニつぉ「月は出づ。花は美くぉ」ヲ以テハ結辞トハ同ジ係辞ニテモぞこそニ較レバ甚ダ輕クナル故ニ「月出づ」「花美くし」ト云ヒテモ同ジク調フ）

ニテ乎ス其連體ノ格ニテ呼ブキハ「出づる日」「出づる月」ノ如ク下句ノ體言ニ連續スルヲ以テ其辞ハ入ル隨テ「形容ヲ云フ辞ニ對シタル日月ノ形容ヲ云フ辞ニ變ズルヲヤ

上句ニ属キテ係辞トナル所ノ接辞ハはものぞや何こそ

ノ七辞ニテ此中はもかぞやこそ其第一格ヲ見ス者ナリ又は道ニ體言ヲ兼ヌ五辞ハ第三格ヲ見スにニ第三格ヲ見スにニ属シ或ハ第四格ヲ見スをニ属スルハ第三格ノにニ属スルハにもにぞにやにこそノ如シ第四格ノをニ属スルハをもをぞをやをこそノ如シ此係辞ナキ者ヲ徒ノ乎尓乎波ト云フ徒はものぞや何こそノ八個ノ係辞ヲ結ブニハ種々ノ辞アレビ其軽重ニ因テ之ヲ三段ニ分ツ徒はものぞや何ノ四辞ノ結ビヲ第一段トシこそノ結ビヲ第二段トス第三段トス第一段ノ係辞（徒はハ）

之ヲ結ブニ截断ノ格（作用言。接辞ノ形ノ辞ヲ用ヒ第二段ノ係辞ぞ・の・や・何ハ之ヲ結ブニ連體ノ格（作用言。接辞ノ形ノ辞ヲ用ヒ第三段ノ係辞こそハ之ヲ結ブニ已然ノ格（作用言。接辞ノ形ノ辞ヲ用フ而メ第一段ハ軽ク第二段ハ重ク第三段ハ最モ重ケレバ係辞ノ相重ナレル者ハ其重ニ從テ結ブ（然レドモ重キ係辞ぞ・や・何・こそハ皆ナル片ハ各別ニ結ザル可ラズ）今先ヅ係辞トナリテ見ル、所ノ接辞ハ何等ノ種類ヨリ出ヅルカヲ左ニ示ス

徒 はもぞや何こそノ無キ者ヲ云フ

は 指示辞ノは・ニテ連用、格ヲ有ツ

も 両辞ノも・ニテ連用、格ヲ有ツ

の 指示辞ノの・ニテ（が・ト云フモ同ジ）連用、格ヲ有ツ

ぞ 指示辞ノぞ・ニテ連用、格ヲ有ツ

や 疑辞ノ連用、格ヲ有ッ（や・連用、格ヲ有ツもカモ同ジ）

何 疑辞ノなに・ニテいかいついづれいづら（いくたれたがたなぞなどいかにノ類ヲ云フ）

こそ 指示辞ノこそ・ニテ連用、格ヲ有ツ

此八個ノ係辞ノ上句ニ在ルトキハ其結ニ用ヒタル辞ハ総テ切ルヽヲ以テ下句ニ連續スルヿ能ハズ故ニ再ビ之ヲ連續セント欲スルニハ必ズ切ルヽ辞ヲ兼ル所ノ接辞ヲ用ヒテ然リ後ニ下句ノ詞ヲ綴ル可シ左ニ擧ル所ノ例ハ

即チ切レシヲ兼タル形ナリ

月光寒(ツキカゲサム)し・・・と見れば云々

鴈(カリ)は鳴(ナ)きにき。・・・と語るに云々

夜(ヨ)も明(ア)けぞ。・・・と思ふに云々

友(トモ)の來(ク)るなる。・・・と聞くに云々

空(ソラ)ぞ時雨(シグ)るる・・・と見る間に云々

今(イマ)や晴(ハ)れん・・・と躊躇(タヾラ)ふに云々

いかにか為(セ)まし・・・と考ふるに云々

雪(ユキ)こそ零(フ)るらし・・・と見居たる間に云々

八個ノ係辞ヲ結ブベキ辞ヲ集テ左ノ表ヲ作ル本居翁ノ紐鏡ニハ

係辞ニ因テ結ビ辞ノ轉變スルヲ二轉ト稱シタリ然レドモ想像辞ノ如キハ係辞ニ因テ轉變スルヿ無クもの・四係辞ヲ兼テぞ・やノ嘆辞ノかもかなノ如キモ徒はもの・四係辞ヲ兼テぞ・や何となノ四係辞ハ結バザル如キ類尚ホ多シ故ニ今ハ輕重ニ因テ係辞ヲ三段ニ分チ結辞モ亦從テ三段ニ分ツ

豆尓乎波ノ表

一假二段三段ノ係辞ヲ結ブ辞ハ各其欄内ニ記ス而メ志。き。けれ う。うるらむ れ ノ如ク一辞ノ轉變ニテ一段ヨリ三段迄ノ結辞トナルヿ者アリ又ハ然ラザル者アリ故ニ一辞ノ轉變ニテ三段ノ結トナル者ハ第一段ノ上ニ於テ其辞ノ出所ヲ示シ否ラザル者ハ結辞トナル段毎ニ於テ其例ヲ示ス

第三變 作用格 四段良行再轉	接辭 現在	接辭 過去	接辭 過去	接辭 想像
り 截斷 有り 習へり 佐り	なり 截斷 佐まり 來たり 照るなり 住むなり	たり 截斷 暮れたり 見たり 聞きたり	けり 截斷 開きけり 散りけり 入りけり 出でけり	めり 截斷 吹くめり 零るめり 言ふめり 聞くめり
る 體連 ある おとらくる をる	なる 體連 ゆくなる くるなる てるなる そむなる	たる 體連 あけたる くれたる みたる ききたる	ける 體連 さきける ちりける いりける いでける	める 體連 ふくめる ふるめる いふめる きくめる
れ 已然 あれ きちーれ をれ	なれ 已然 ゆくなれ くるなれ てるなれ そむなれ	たれ 已然 あけたれ くれたれ みたれ ききたれ	けれ 已然 さきけれ ちりけれ いりけれ いでけれ	めれ 已然 ふくめれ ふるめれ いふめれ きくめれ

第一段	形狀 單辭 複辭	接辭 過去 辭	接辭 否不 辭	接辭 否不 辭
徒はも 係辭	し 截斷 深かし 淺さし 樂のし 久さし	き 截斷 有りき 無りき 聞きき 知りてき	ぜ 截斷 然ねぜ 滅ねぜ 解けぜ 失せぜ	ず 截斷 然にず 滅にず 解けず 失せず

第二段	體連	體連	體連
のぞや何 係辭	く ふかく あさく たのまく ひさまく	し あり し なかり し きに し まりて し	ぬ もにぬ きにぬ とけぬ うせぬ

第三段	已然	已然	已然
こそ 係辭	けれ ふかけれ あさりけれ たのまれけれ ひさまけれ	しか あり しか なかり しか きに しか まりて しか	ね もにね きにね とけぬ うせね

作用 四段活辭	作用 上二段下二段	作用 上二段下二段	作用 上二段下二段	作用 上二段下二段
く 截斷 鳴聞行飽 く く く く	る 截斷 慈箭拈忘 る る る る	ゆ 截斷 老梅消絶 ゆ ゆ ゆ ゆ	む 截斷 試恨譽涤 む む む む	ふ 截斷 強忍加傳 ふ ふ ぶ ふ
作用 四段活辭				
く 體連	る 體連	ゆる 體連	むる 體連	ふる 體連
なきあゆ く く く く	ふるこるかわをる るるるるるる	おくゆるきゆるたゆる	こころひるうらむるほむるそむる	去ふる去のぶるくはふるつたふる
け 然已	るれ 然已	ゆれ 然已	むれ 然已	ふれ 然已
なきあゆ け け け け	ふるれこるれかわをるれ	おくゆれきゆれたゆれ	こころひれうらむれほむれそむれ	去ふれ去のぶれくはふれつたふれ

作用 下二段活辭	作用 上二段下二段	作用 上二段下二段	作用 上二段下二段	作用 上二段下二段
う 截斷 植飢居蹴 う う う う	く 截斷 起來受掛 く く く く	そ 截斷 拙海載痩 そ そ そ そ	つ 截斷 落恥捨見 つ つ づ つ	ぬ 截斷 兼重さぬ零りぬ吹きぬ
作用 下二段活辭				
うる 體連	くる 體連	そる 體連	つる 體連	ぬる 體連
うううるうるうるうるうるうる	おくるくるうるかくる	こぞるそるのそるやそる	おつるはづるをつるみつる	かぬるかきぬるふりぬるふきぬる
うれ 然已	くれ 然已	それ 然已	つれ 然已	ぬれ 然已
うれうれうれうれうれうれ	おくれくれうくれかくれ	こぞれそれのそれやそれ	おつれはづれをつれみつれ	かぬれかきぬれふりぬれふきぬれ

作用 四段活辞	作用 四段活辞	作用 四段活辞	接辞 将来辞	作用 四段活辞
つ 断 截 待つ 立つ 打つ 満つ	ふ 断 截 添ふ 排ふ 逢ふ 追ふ	む 断 截 摘む 倦む 汲む 住む	ん 断 截 鳴き給ん 往くらん 聞かん 見ん	を 断 截 渡も 残も 貸も 為も
作用 四段活辞	作用 四段活辞	作用 四段活辞	接辞 将来辞	作用 四段活辞
つ 体 連 つつつ みまたう	ふ 体 連 ふふふ そはらおふ	む 体 連 むむむ つうくそむ	ん 体 連 んんん みきかゆくらんなきけん	を 体 連 もももわたそのこをかなを
作用 四段活辞	作用 四段活辞	作用 四段活辞	接辞 将来辞	作用 四段活辞
て 已然 へへへ そはらおへ	へ 已然 へへへ そはらおへ	め 已然 めめめ つうくそめ	め 已然 めめめ なきけゆくらめきかみめ	せ 已然 せせせ わたそのこせかなせ

作用 四段上一段下一段	接辞 想像辞	接辞 将来辞	接辞 希求辞
る 断 截 散る 釣る 見る 蹴る	ら 断 截 書くら 問ふら 知るら 呼ぶら	ま 断 截 問はま 言はま 聞かま 打たま	ば 断 截 問はば 言はば 聞かば 往かば
作用 四段上一段下一段	接辞 想像辞	接辞 将来辞	接辞 両辞
る 体 連 ちつるる みけるる	ら 体 連 かくらむ とふらむ まるらむ よぶらむ	ま 体 連 とはまむ いはまむ きかまむ うたまむ	つ 用 連 見つつ 来つつ 鳴きつつ 開きつつ
接辞 将来辞	接辞 想像辞	接辞 将来辞	接辞 両辞
ま 体 連	ら 体 連	ま 体 連	② 用 連
れ 已然 ちつれれ みけれれ	ら 断 截 かくらむ とふらむ まるらむ よぶらむ	まが 已然 とはまがば いはまがば きかまがば うたまがば	

此つゝ二結ブハ餘意ヲ含ノアリ故ニ其餘モ連用ニテ裏ノ結辞ニ非ズ

二段ノ係辞中ニテモノハ輕シ其餘ノ二用フ次モ皆此例リ

接辭	嘆辭	希求辭	よ	斷	截
接辭	嘆辭	希求辭	よな	斷	截
接辭	命令辭	よや		斷	截
接辭	命令		ね	斷	截
接辭	嘆辭		を	斷	截

花よ　鳥よ　教へよ　勉めよ

嘆辭よ。

嘆辭ノよ。嘆辭ノよ。ナニ重ナル辭

命令辭ノよ。嘆辭ノよ。ヤニ重ナル辭

往きね　問ひね　負ひね　過ぎね

渡せを

接辭	嘆辭	希求辭	よ	斷	截
接辭	嘆辭	希求辭	よな	斷	截
接辭	命令辭	よや		斷	截
接辭	命令		ね	斷	截
接辭	嘆辭		を	斷	截

二段ノ係辭ノ中ノ結ビノニ用フ

二段ノ係辭ノ中ノ結ビノニ用フ

二段ノ係辭ノ中ノ結ビノニ用フ

二段ノ係辭ノ中ノ結ビノニ用フ

二段ノ係辭ノ中ノ結ビノニ用フ

接辭	指示辭ノ助ノ嘆辭ノ重ナル辭		は	も	截
接辭	指示辭ノ助ノ嘆辭ノ重ナル辭		は	や	截
接辭	嘆辭		か		截
接辭	反辭		か		截

花はも　月はも

花はや　月はや

花か　月か

接辭	指示辭ノ助ノ嘆辭ノ重ナル辭		は	も	截
接辭	指示辭ノ助ノ嘆辭ノ重ナル辭		は	や	截
接辭	嘆辭		か		截
接辭	反辭		か		截

二段ノ係辭ノ中ノ結ビノニ用フ

二段ノ係辭ノ中ノ結ビノニ用フ

二段ノ係辭ノ中ノ結ビノニ用フ

此ヲニテ結ブハ歎息ノ命メテノリ改ニ其格モ連用テ真ノ結辭ニ非ズ

接辭	指示辭ノ助ノ嘆辭ノ重ナル辭		は	も	截
接辭	指示辭ノ助ノ嘆辭ノ重ナル辭		は	や	截
接辭	嘆辭		か		截
接辭	反辭		か		截

花はも　月はも

花はや　月はや

花か　月か

接辭	指示辭ノ助ノ嘆辭ノ重ナル辭		は	も	截
接辭	指示辭ノ助ノ嘆辭ノ重ナル辭		は	や	截
接辭	嘆辭		か		截
接辭	反辭		か		截

二段ノ係辭ノ中ノ結ビノニ用フ

二段ノ係辭ノ中ノ結ビノニ用フ

二段ノ係辭ノ中ノ結ビノニ用フ

接辞 疑辞	接辞 嘆辞 疑辞	接辞 嘆辞	接辞 反辞	接辞 疑辞ノ嘆辞ノやニ重ナル辞
か 截 断	かも 截 断	かな 截 断	かは 截 断	かや 截 断
接辞 疑辞	接辞 嘆辞 疑辞	接辞 嘆辞	接辞 反辞	接辞 疑辞ノ嘆辞ノやニ重ナル辞
か 截 断	かも 截 断	かな 截 断	かは 截 断	かや 截 断

此疑辞ノかハ二段ノ何ト云フ係辞ヲ結ブ辞ナリ但シ此結辞ハ餘意アル者トス

二段ノ係辞中ノ結ビノミニ用フ

二段ノ係辞中ノ結ビノミニ用フ

二段ノ係辞中ノ結ビノミニ用フ

二段ノ係辞中ノ結ビノミニ用フ

二段ノ中ノ結ビニ用ヒ又何ノ結ビニ用フ但シ何ト云フ係辞ヲ結ブトキハ餘意アル者トス

接辞 希求 辞	接辞 希求 辞	接辞 希求 辞	接辞 命令 辞	接辞 疑辞 又辞
が 截 断	がも 截 断	がな 截 断	なん 截 断	や 截 断
接辞 希求 辞	接辞 希求 辞	接辞 希求 辞	接辞 疑辞 反辞	接辞 疑辞 又辞
が 截 断	がも 截 断	がな 截 断	なん 截 断	や 截 断

開かなん 散らなん 折らなん 取らなん

二段ノ何ト云フ係辞ノ中ノいかでノ結ビニ用フ

二段ノ何ト云フ係辞ノ中ノいかでノ結ビニ用フ

二段ノ係辞ノ中ノ結ビノミニ用フ

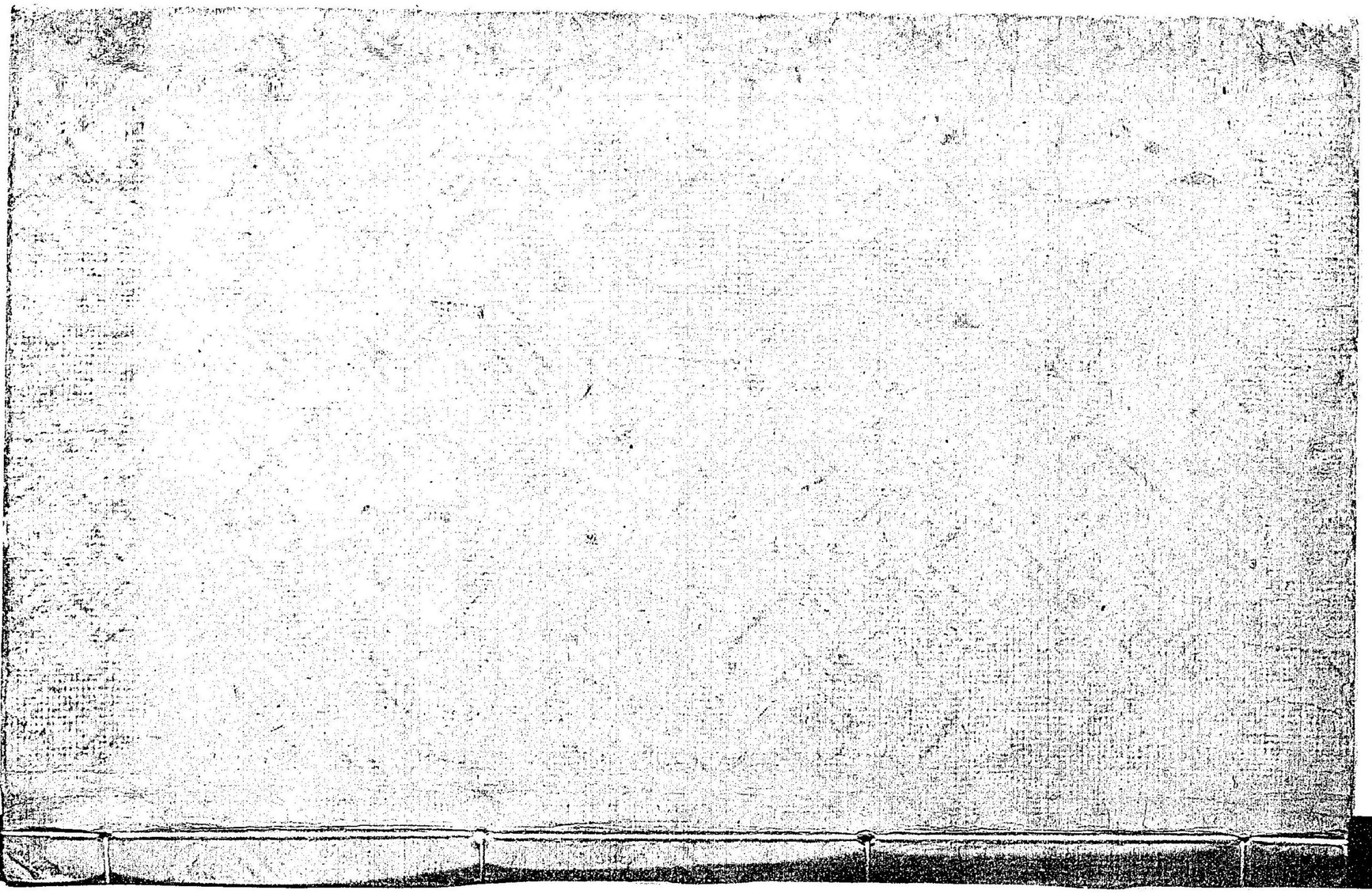
二段ノ係辞ノ中ノ結ビノミニ用フ

接辞 疑辞 反辞	接辞 疑辞 反辞	接辞 反辞	接辞 疑辞や。指示辞をに二重なル辞	接辞 指示辞	接辞 指示辞ぞ。疑辞かに二重なル辞	接辞 指示辞ぞ。疑辞かに二重なル辞
やも 截 断	やは 截 断	やぞ 截 断	ぞ 截 断	ぞも 截 断		
接辞 疑辞 反辞	接辞 反辞	接辞 疑辞や。指示辞をに二重なル辞	接辞 指示 辞	接辞 指示辞ぞ。疑辞かに二重なル辞		
やも 截 断	やは 截 断	やぞ 截 断	ぞ 截 断	ぞも 截 断		
二段ノ係辞ノ中ノ結ビノミニ用フ	二段ノ係辞ノ中ノ結ビノミニ用フ	二段ノ係辞ノ中ノ結ビニ用ヒ又何ノ係辞ヲ結ブ	二段ノ係辞ノ中ノ結ビニ用ヒ又何ノ係辞ヲ結ブ	二段ノ係辞ノ中ノ結ビニ用ヒ又何ノ係辞ヲ結ブ		

接辞 疑辞	接辞 疑辞	接辞 指示辞ぞ。疑辞や。指示辞ぞ。疑辞かに二重なル辞	接辞 指示辞ぞ。疑辞や。指示辞ぞ。疑辞かに二重なル辞	接辞 指示辞ぞ。疑辞かに二重なル辞	接辞 指示辞ぞ。疑辞かに二重なル辞	
いかに 截 断	なぞ 截 断	ぞよ 截 断	ぞや 截 断 誰ぞや 我ぞや	ぞは 截 断 誰ぞは 我ぞは		
接辞 疑辞	接辞 疑辞	接辞 指示辞ぞ。疑辞や。指示辞ぞ。疑辞かに二重なル辞	接辞 指示辞ぞ。疑辞や。指示辞ぞ。疑辞かに二重なル辞	接辞 指示辞ぞ。疑辞や。指示辞ぞ。疑辞かに二重なル辞		
かいに 截 断	なぞ 截 断	ぞよ 截 断	ぞや 截 断	ぞは 截 断		
二段ノ係辞中ノ「やト」ノ結ビニ用フ	二段ノ係辞ノ中ノ結ビニ用フ	二段ノ係辞ノ中ノ結ビニ用ヒ又何ノ係辞ヲ結ブ	二段ノ係辞ノ中ノ結ビニ用ヒ又何ノ係辞ヲ結ブ	二段ノ係辞ノ中ノ結ビニ用ヒ又何ノ係辞ヲ結ブ		

| | | |

明治十一年二月廿六日　版權免許
仝　年七月出版

著者　大分縣士族　物集高見　第二大區三小區三年町二番地
出版人　東京府平民　出雲寺萬次郎　第一大區十三小區橫山町二丁目一番地
發賣　仝　片山武兵衛　第一大區十四小區冨澤町二十七番地

接辭	一種	がね 截斷
接辭	一種	がに 截斷
接辭	一種	かた 截斷 一段ノ係辭ノ中徒ノ結ビニ用フ
接辭	一種	がね 截斷 二段ノ係辭ノ中ノ結ビニ用フ
接辭	一種	がに 截斷